

# 原注

## 原注で使われている略称

### 文書および記録保管所

Apollo 14 Transcript: Apollo 14 空／地上の通信記録(216時間、1019ページ): 米航空宇宙局リンドン・B・ジョンソン宇宙センター、有人宇宙飛行センター(テキサス州ヒューストン)

APS: 米国哲学協会(ペンシルヴェニア州フィラデルフィア)

Author FOIA, Army: 著者の情報公開法による開示請求を陸軍が許可した文書

Author FOIA, CIA: 著者の情報公開法による開示請求をCIAが許可した文書

Author FOIA, DARPA: 著者の情報公開法による開示請求をDARPAが許可した文書

Author FOIA, FBI: 著者の情報公開法による開示請求を許可したFBIが文書

CIA: 中央情報局デジタル・コレクション

LOC: 米国議会図書館(ワシントンDC)

NARA: 米国国立公文書記録管理局(メリーランド州カレッジ・パーク)

OSTI: 米エネルギー省科学技術情報局デジタル・コレクション

Star Gate Collection, CIA: CIAは1955年の議会命令に準じて機密解除された超常現象関連文書を89,900ページ以上公開している。情報公開法に基づいてTIFファイルとしてDVDで、または国立公文書記録管理局(メリーランド州カレッジ・パーク)にて閲覧可能。

TNA, Kew: イギリス国立公文書館(イギリス、キュー)

### 政府機関および外郭団体

CIA: 中央情報局

DIA: 国防情報局

DoD: 国防総省

FBI: 連邦捜査局

INSCOM: 情報保全コマンド

LLNL: ローレンス・リヴァモア国立研究所

NASA: 航空宇宙局

SRI: スタンフォード研究所(1977年にSRIインターナショナルに改称)

## プロローグ

- p.10 「ESPが本物の現象として存在すると認めざるを得ない」: Author FOIA, CIA: “An Overview of Extrasensory Perception,” January 27, 1975.

## 第1章 スーパーナチュラル

- p.16 機体からパラシュートで: “Hess Drama,” British Paramount News. 1941年の公式 ニュース映画で、ヘスを捕えた男がインタビューに答えている。彼がのちに語ったところによれば: Albert Speer, *Spandau: The Secret Diaries*, 176. シュペーアによれば、ヘスはハミルトン公に「ドイツはイギリスの安全を保障するので、見返りとしてヨーロッパで自由に活動させてほしい」と告げるつもりだったという。その後のイギリス諜報機関によるヘスの尋問の詳細は、2041年まで機密扱いとされている。
- p.17 「占星術を信じるドイツ人に」: “Sybil Leek, The South’s White Witch,” BBC Home, October 28, 2002.  
「母はヘスの事件について」: シビルの息子のジュリアン・リークに取材。ジュリアンはシビルの文書類を保持している。1972年に国防総省のESPに関する極秘研究論文にシビル・リークが引用されており、彼女が第二次世界大戦後にアメリカ諜報機関の協力者になったという噂に信憑性をあたえている。シビルは、1962年にアメリカへ移住した。  
ヒトラーはヘスが精神に異常をきたしていたと: Manvell and Fraenkel: *Hess: A Biography*, 142, 212.  
「タロット・カード占い、星占い」: Wilhelm Wulff, *Zodiac and Swastika*, 112.
- p.18 総統がアルベルト・シュペーアに: Speer, *Inside the Third Reich*, 94. (アルベルト・シュペーア『第三帝国の神殿にて——ナチス軍需相の証言』品田豊治訳、中公文庫)。引用の続きは以下の通り。「教会には少なくとも伝統がある。いつか私が“親衛隊の聖人”にされるとは、考えてもみたまえ。そうなったら私は浮かべられないよ」  
「ひと握りの人間の特典であり」: Wulff, *Zodiac and Swastika*, 110–111. ヒムラーはヴルフをフルスビュッテル強制収容所から救出し、引き取っていた。  
つまり、占星術は宣伝運動に: Ibid., 94.  
アメリカ国内でも、同じような: William Stephenson, *A Man Called Intrepid*, 363–365. (ウィリアム・ステューヴンソン『暗号名イントレピッド——第二次世界大戦の影の主役』寺村誠一・赤羽龍夫訳、早川書房)  
欧米でもっとも有名な占星術師: TNA, Kew, “Louis de Wohl File,” Minute Sheets, August 1, 1940–March 15, 1945, n.p.
- p.19 「ヒトラー暗殺計画が進行している」: Ibid; “Press cutting from ‘New York Sun,’ 22.6.41.”

- p.20 イギリス情報局秘密情報部(MI6)がでっち上げた: Stephenson, *A Man Called Intrepid*, 364–365. (ウィリアム・ステューヴンソン『暗号名イントレピッド——第二次世界大戦の影の主役』寺村誠一・赤羽龍夫訳、早川書房)  
まずド・ウォールに情報を流し: TNA, Kew, “Louis de Wohl File,” Minute Sheets, August 1, 1940–March 15, 1945, n.p. ステューヴンソンは、イギリス諜報機関のアメリカ国内の作戦部門、イギリス安全保障調整局の責任者だった。イギリス諜報機関は同局に無難な名称をあたえ、ニューヨークのロックフェラー・センターにあるイギリス旅券局の一部に見せかけていた。  
「アメリカの情報収集と」: “The Intrepid Life of Sir William Stephenson,” *CIA Studies in Intelligence, News and Information*, February 5, 2015.
- p.21 「彼の超自然的な力の信者は」: Author FOIA, TNA, Kew, De Wohl File, Minute Sheets, National Archives, KV2/2821.  
ゲシュタポに没収されて: Wulff, *Zodiac and Swastika*, 95.
- p.22 精神病院に収容され: Stephen E. Flowers, *The Secret King: Karl Maria Wiligut, Himmler’s Lord of the Runes*, Appendix E: “An Interview with Frau Gabriele Winckler-Dechend, 1997.”  
アーネンエルベの使命は: Samuel Goudsmit, *Alsos*, 203. (サムエル・A・ハウストミット『ナチと原爆——アルソス: 科学情報調査団の報告』山崎和夫・小沼通二訳、海鳴社)アーネンエルベの直訳は、「祖先から受け継いだもの」。
- p.23 「オカルト科学なるものの調査」: Fritz T. Epstein, *War-Time Activities of the SS—Ahnenerbe*, 79–81.
- p.24 人体実験: Goudsmit, *Alsos*, 207. (サムエル・A・ハウストミット『ナチと原爆——アルソス: 科学情報調査団の報告』山崎和夫・小沼通二訳、海鳴社)
- p.25 「徹底的に調べさせる」: Ibid., 207. 1943年にイギリス空軍がハンブルクを爆撃後、ヒムラーはアーネンエルベの収集物を占領地域のさまざまな秘密の場所に移しはじめた。これらの収集物が見つかるまで、アルソス・チームはアーネンエルベの元本部に残されたものから手がかりを得ようとしていた。  
「気味の悪いチュートン民族のシンボルや儀式」: Ibid., 124.
- p.26 ここで初めて、アーネンエルベの科学が: セルジュ・カレンバツォンに取材。以下も参照。Kernbach, “Unconventional Research in USSR and Russia,” *International Journal of Unconventional Science*, Cornell University (Fall 2013): n.p.  
白自剤: Annie Jacobsen, *Operation Paperclip*, “Chapter Nineteen, Truth Serum,” 364–372. (アニー・ジェイコブセン『ナチ科学者を獲得せよ——アメリカ極秘国家プロジェクト ペーパークリップ作戦』加藤万里子訳、太田出版)。メリーランド州の施設とは、フレデリックのフォート・デトリックとエッジウッドの陸軍化学センターを指す。  
CIAは、研究のために: John Marks, *The Search for the “Manchurian Candidate,”* 87, 194–198. ジュリアン・リークに取材。

- p.27 その結果を測定し記録できるように: *International Military Trials, Nurnberg: Nazi Conspiracy and Aggression, Supplement A*, Office of the United States, Chief of Counsel for Prosecution of Axis Criminality, United States Government Printing Office, Washington, 1947; Translation of Document 087, "Ahnenerbe Society: Institute for Military Scientific Research, June 21, 1943," "Excerpts from 1944 diary, 'Das Ahnenerbe,' regarding medical experiments in concentration camps, GB 551."  
 必要な対抗手段だと: Kernbach, "Unconventional Research in USSR and Russia," n.p.  
 「メキシコ先住民の部族の」: Memorandum for the Record, Subject Project ARTICHOKE, November 21, 1952, signed by Sheffield Edwards (National Security Archives). 以下も参照。Boxes 3 and 10, MKUTLRA 58: J.P. Morgan and Co. Agency Policy and Conferences; ワッソンのファイル。

## 第2章 プハーリッチ理論

- p.30 牛乳配達として働き: Transcript, "Talk Given By Dr. Andrija Puharich at the Understanding Convention at Astara, Upland, California, Nov. 6, 1982."  
 p.31 自然界: Library of Congress (LOC), Marcella du Pont Papers (1861-1976). 以下にも記述あり。H. G. M. Hermans, *Memories of a Maverick*, "Early Life and Adolescent [sic]." 本章の情報の多くは、プハーリッチの文書と、マルセラ・デュボンの文書にあった手紙に基づいている。これらの希少な原本には、ラウンド・テーブル財団の未公開情報が記されている。  
 「自分の心を本当に知っている人間は」: Andrija Puharich, "An Intellectual Autobiography of Henry Puharich". 以下のヘルマンズの自著にて引用。*Memories of a Maverick*, "College and Medical School," 37. (ヘルマンズは自著のなかで数人を仮名にしている)  
 p.32 「それを解明できたら」: LOC, Marcella du Pont Papers, Letter to Dr. Garfield, director of Kaiser Permanente Hospital, from Henry Karel Puharich, 1947. 以下にも記述あり。Hermans, *Memories of a Maverick*, 39.  
 指導をおおいだアンドリュウ・C・アイヴィー博士: Author FOIA, CIA, "Henry (Andrija) Karl Puharich, Career Resume," n.p., n.d. (15 pages). 1950年代末から1960年代初期に、アイヴィー博士はクレビオゼンというがんのいんちき治療に関与した。アルゼンチンの馬の血清から開発されたこの薬はがん患者の腫瘍を小さくすると謳っていたが、米国医師会によりベテンと訴えられた。これに

より、アイヴィーの輝かしい名声は永遠に失われた。

- p.33 本質はそういうところにあった: 著者は、アンディ・プハーリッチ、ユリゲラー、エドガー・ミッチェル、チャールズ・タート、ジョン・アレグザンダー、ジャック・ヴァレ、ハル・パソフ、ステファニー・フルコスその他からプハーリッチについて話を聞いた。  
 p.34 「渡り鳥の長い移動経路をよく見てみよう」: LOC, Marcella du Pont Papers, Puharich, "Introduction to the Round Table Laboratory of Experimental Electrobiolgy," Camden, Maine, 1949, n.p.「この力はギリシャの黄金時代から人間のなかに存在していた。そして、せわしない現代も失われていない」と、プハーリッチは書いている。  
 「神経系の特性」: Ibid., n.p.  
 p.35 ジョイス・ボーデン: LOC, Marcella du Pont Papers, "Trustees, February 8, 1947" (プハーリッチの手書きのメモと思われる)。  
 p.36 宇宙旅行をする主人公たち: John Jacob Astor, *A Journey in Other Worlds: A Romance of the Future*, 321.  
 p.37 「魔術の母」: LOC, Marcella du Pont Papers, Andrija Puharich to Marcella du Pont, n.d.  
 「私の素晴らしい友人のジョン・ギングリッチ大將が」: LOC, Marcella du Pont Papers, Letter from Marcella Miller du Pont to her brother, Victor A. Miller, Esq., July 15, 1953.  
 海軍: プハーリッチと海軍の潜水艦を使ったESP研究のつながりは長いあいだ否定されてきたため、これらの手紙は新たな発見である。ギングリッチ大將は、原子力委員会の安全保障と情報の責任者だった。マルセラ・デュボンがプハーリッチを紹介したとき、大將は海軍装備コマンドを率い、海軍の調達活動全般を担当していた。レクスフォード・ダニエルズ(のちのケネディ大統領の科学顧問)とアンドリア・プハーリッチのつながりも、現在は立証されている。  
 レクスフォード・ダニエルズ: Dan Hoolihan, "EMC Society History on Rexford Daniels— One of the Founders of the EMC Society," EMC.org newsletter, 50th Anniversary Edition, 2007. ダニエルズは、1940年代にMIT放射線研究所トランジション部門グループ39で働いていた。  
 p.40 とらえどころのない第六感の探求: LOC, Marcella du Pont Papers, Puharich, "Introduction to the Round Table Laboratory of Experimental Electrobiolgy," Camden, Maine, 1949," Appendix, n.p.: Round Table Foundation: Progress Report, 1950, n.p. プハーリッチはESPに限定せず、予知、念動力、霊との交信など超心理学的なものすべてを探求していた。ラウンド・テーブル財団の図書室では役員会と週例の交霊会がおこなわれ、テーマは目的論から手相まで多岐にわたっていた。  
 p.41 自分の名前を冠した魚雷: "Radio Controlled Torpedo Wins Favor of Navy and Army Experts," *Aerial Age Weekly* 3 (September 4, 1916): 744.

- p.42 もっとも有名な三人の発明家: 軍との取引がまとまらなかったテスラは、ハモンドに無線遠隔制御の知識を教授した。海軍がハモンドの遠隔操縦魚雷を支持すると、議会はその「素晴らしい発明」の獲得に75万ドル(2016年の換算で1600万ドル)の予算を計上した。  
バランスを取ることに長けていた: “Castle Is Inventor’s Vision of the Past,” *New York Times*, October 9, 1988.  
「発明の術について」: LOC, Marcella du Pont Papers, Puharich Notes, n.p. 師弟関係は以下にも記述あり。Mentorship also discussed in Hermans, *Memories of a Maverick*, 48–49.  
その前にも同じことを考えた: Alli N. McCoy and Yong Siang Tan, “Otto Loewi (1873–1961): Dreamer and Nobel laureate,” *Singapore Medical Journal* 55, no. 1 (January 2014): 3–4; Banting, “The Discovery of Insulin,” Nobel.org; Webb Garrison, “How to Produce New Ideas,” *Popular Mechanics* (March 1954): 102–105.  
シンボルのウロボロス: 「(ケクレが)冗談を言っていたかもしれない」ことを証明しようと熱心に調査した歴史家が少なくともひとりいる。Malcolm W. Browne, “The Benzene Ring: Dream Analysis,” *New York Times*, August 16, 1988.
- p.43 テスラは子供のころにESPを経験した: “Nikola Tesla,” *Time*, *The Weekly Newsmagazine* XVIII, July 20, 1931; Andrija Puharich, “Effects of Tesla’s Life and Inventions,” 2–4.
- p.44 有力な体制派科学者であり、CIAの協力者: APS Records, Warren Sturgis McCulloch Papers, B: M139, Series 1, “Puharich, Henry K.” 以下で記載されるように、メイシー財団はCIAの隠れ蓑だった。John Marks, *The Search for the “Manchurian Candidate,”* 63, 120.
- p.45 「金属の詰め物が」: Ibid., Letter to Dr. Henry K. Puharich, from Warren S. McCulloch, May 23, 1951. Puharich, “Paper No. 2,” Sixth Ozone World Conference of the International Ozone Association, May 22–26, 1983, Washington, D.C.: 112–115.
- p.46 記事はプハーリッチの探求を: Arthur Krock, “One Phase of the Unending Quest,” *New York Times*, September 7, 1951.  
数カ月前に創設されたばかりの: Alfred H. Paddock, Jr., *US Army Special Warfare: Its Origins*, 89–90.
- p.47 スタンリーは陸軍で: Author FOIA, CIA: Memorandum for Brig. General John L. Magruder, OSD, Subject: Psychological Warfare Organization, May 28, 1951. 1951年1月15日に、チラシや拡声器を使うプロパガンダと急進的で新しい戦争活動を融合するために心理戦部長室が創設されたことに注目。  
「わたしたちが開発中の」: Puharich, *Sacred Mushroom*, 5. 以下も参照。

LOC, Marcella du Pont Papers, Puharich personal papers (handwritten notes). Puharich writes, “Reason for securing interest of USN [U.S. Navy] in RTF [Round Table Foundation] is Electro-physical Enclosure Technique, also called treated Faraday Cage.” プハーリッチは、「USN(アメリカ海軍)がRTF(ラウンド・テーブル財団)に関心を持った理由は、電気物理的の包囲テクニック、別名ファラデー・ケージだった」と、書いている。

ある種の超自然的な力: ユーチューブには、現実を監視する九つの原理の力が存在するとプハーリッチが語るインタビュー映像が多数ある。

- p.48 「歯のあいだから音を出していた」: Puharich, *Uri*, 13.(アンドリヤ・H・プハーリッチ『超能力者ユリゲラー』井上篤夫訳、二見書房)
- p.50 ある種の地球外知的生命: 上記のユーチューブのインタビューによると、プハーリッチは「九つの存在(ザ・ナイン)は人間のさらなる進化を助けようとしている」と信じていた。

### 第3章 懐疑論者とベテン師とアメリカ陸軍

- p.51 『奇妙な論理』: マーティン・ガードナーの著書の元のタイトルは『科学の名において——科学の司祭長と崇拜者たちの愉快な調査、過去と現在 *In the Name of Science: An Entertaining Survey of the High Priests and Cultists of Science, Past and Present*』だが、本書ではより一般的な改題の方を引用した。  
「ヒロシマ上空で原子爆弾が爆発して以来」: Gardner, *Fads and Fallacies*, 5–7.(マーティン・ガードナー『奇妙な論理』市場泰男訳、早川書房)
- p.53 「巨大な自己欺瞞」: Ibid., 303–304, 308.  
ESPと動物: Author FOIA, Army: “Memo, To O’Goff and O’Toole. From J. N. [sic] Rhine, Director, Duke University, Parapsychology Laboratory,” July 10, 1953.
- p.54 「完全な失敗」: Author FOIA, Army: Rhine Study, “Research on Animal Orientation with Emphasis on the Phenomenon of Homing in Pigeons,” January 26, 1954, 11.  
「伝書バトはどのように伝書するのか」: Ibid., 12.
- p.55 ネコを使った実験では: Ibid., 10–11; 1952年に、オンスは以下をはじめ同様の研究に関する非機密扱いの論文をいくつか執筆している。“A test of the occurrence of a psi effect between man and the cat,” *The Journal of Parapsychology* 16, no. 4 (1952): 233.  
これを二〇〇回続けたあと: Rhine Study, 13.  
「軍事の基礎研究プログラムの活用範囲は」: Ibid., 15. ラインは、海軍が今も機密扱いにしている多数のプログラムに従事していたようだ。多くの論文で海軍

- の研究支援に謝意を表しているが、研究内容には一度も触れていない。海軍には、ESP研究にかかわる理由があった。革新的な原子力潜水艦ノーチラス号の完成により、水中の極度に狭い空間で長期間過ごす水兵に幻視や幻聴などの特異的知覚が現れる報告があり、海軍潜水医学研究所(NSMRL)の生理学者や科学者が調べていたからだ。1950年代と1960年代にNSMRLが発表した550の論文のうち、少なくとも7つは超感覚的知覚を扱っていたと思われる(著者個人の解釈)。これらの論文は現在もすべて機密扱いとされている。
- ESPについて秘密のブリーフィングをおこなった: Author FOIA, CIA: "Henry (Andrija) Karl Puharich, Career Resume," n.p., n.d. プハーリッチはESPのレクチャーをするためにアメリカ空軍航空医学校の指揮官から個人的に招かれていた。当時の航空医学校には、極限状態における人間の生理機能を研究した元ナチの医師が大勢いた。これについては、以下を参照。Annie Jacobsen, *Operation Paperclip*(アニー・ジェイコブセン『ナチ科学者を獲得せよ!—アメリカ極秘国家プロジェクト ペーパークリップ作戦』加藤万里子訳、太田出版)。こうした会合は、以下でも引用されている。Kenneth A. Kress, "Parapsychology in Intelligence: A Personal Review and Conclusions," *Studies in Intelligence*, 21 (Winter 1977).
- p.56 「この(ESP)能力を引き出して」: Author FOIA, CIA: "Henry (Andrija) Karl Puharich, Career Resume," n.p., n.d.; Puharich, *Sacred Mushroom*, 35.  
MKウルトラ、サブプロジェクト58: Marks, *The Search for the "Manchurian Candidate,"* 122. 1973年、CIAは当時のリチャード・ヘルムズ長官の命令により、MKウルトラのファイルのほぼすべてを破棄した。Church Committee Hearings, Record Book I, 404. 以下も参照。Puharich, *Sacred Mushroom*, 36.
- p.57 他人には言えない個人的な問題: Hermans, *Memories of a Maverick*, 65.  
ハリースタンプ: "Harry Stump, WWII Resistance Fighter," Associated Press, August 31, 1998. プハーリッチの文書ではスタンプに複数の仮名が使われており、ふたりのつながりが明らかになったのはスタンプの死後に出版された彼の自伝からだ。スタンプは祖国オランダの戦争の英雄で、ナチに抵抗した功績をオランダ政府から表彰されている。戦時中、17歳だった彼は伝書係として活動し、ゲシュタポに捕えられ、殴打と拷問により死にかけた。  
「エジプトの象形文字を書きはじめた」: Puharich, *Sacred Mushroom*, 15-16. この出来事の情報はすべてプハーリッチの著書で、ほかの情報は見つかっていない。
- p.58 それはかさに斑点のある: Ibid., 16. プハーリッチは次のように書いている。「そのキノコは人間の痛みを消し去ることができる。痛みを耐えられないとき、気分を変えるために軸の皮をはかし、白い斑点も除去するのだ」と、スタンプは言った。この効果的な鎮痛剤で霊能力を刺激する最善の方法も詳しく語った。「トランス状態になるためには、この軟膏を頭と関節に擦りこむとよい」」
- p.60 「人間が遠く離れた場所まで」: Ibid., 36.
- p.61 保全許可レベルを引き上げた: Author FOIA, CIA: "Henry (Andrija) Karl Puharich, Career Resume," n.p., n.d.  
こうも告げた。: Puharich, *Sacred Mushroom*, 26.  
裕福な教授を装ったムーア: Author FOIA, CIA: "Appendix E. Summary of Agency Records Retrieval, Central Intelligence Agency" n.p., n.d. 以下も参照。Marks, *The Search for the "Manchurian Candidate,"* 117-122.  
「天然物化学」: Marks, *The Search for the "Manchurian Candidate,"* 118.
- p.63 「頭がおかしいと見なされる」: Puharich, *Sacred Mushroom*, 39.
- p.64 著書: Flournoy, *From India to the Planet Mars*. "Fig. 21. Text No. 16; Seance of August 22, 1897. First Martian text written by Mlle. Smith (according to a visual hallucination)."
- p.65 「科学は人間の潜在意識の隠れた働きを」: 興味深いことに、エレネ・スミスはこの説明に納得せず、本の出版後、二度とフルルノフと話さなかった。1910年代になると、彼女はフランスの超現実主義者たちに「自動書記の女神」と称えられ、スミスの絵が展示され、受け入れられた。フルルノフの読者の多くは、彼が霊媒作用の科学的代替案を提示しようとしたにもかかわらず、潜在記憶を「神秘的な心霊現象」と判断した。以下は、フルルノフの編集者が書いた英語版の序章である。「人間の隠された無意識のなせる業はわたしたちには通信できない未知の霊界を暗示しているのかもしれない。その霊界が実証されれば待ち望んでいた答えがわかる、と信じる人々が増えている」  
ケラーの童話: Helen Keller, *The Story of My Life*, Chapter XIVは、全米盲人基金のウェブサイトにて閲覧可能。  
ここで取り上げられたのは、ユスティヌス・ケルナーの著作*Letters from Prevorst*。ケルナーの本は、偶然にもオカルトや説明のつかないさまざまな現象を編集したものだ。該当部分は1686年の筆者不明の航海日誌である。このコンセプト全体がウロボロスのように輪につながっている。
- p.66 ニーチェの妹の: Paul Bishop, *The Dionysian Self: C. G. Jung's Reception of Friedrich Nietzsche*, 83-84.

#### 第4章 疑似科学

- p.68 「マツの木とトウヒの」: APS Records, Warren Sturgis McCullough Papers, B: M139, Series 1, "Puharich, Henry K." Round Table Foundation, letters and invitations, n.d. これらの文書から、プハーリッチのエリート集団の仲間のことがわかる。なかには、元アメリカ副大統領のヘンリー・ウォレスもい

- た。「どうぞ遊びにきてください。ここはくつろげますよ」と、プハーリッチはウォレスに書いている。ウォレスは、占星術、農業、フリーメーソンに関心を持っていたため、「とうもろこしで養われた神秘主義者」というあだ名をつけられていた。
- コケモモの実がなる野原で: Andrija Puharich, *Sacred Mushroom*, 89.
- p.69 三つの化学物質: ムスカリンは身体の副交感神経末端を刺激して、嘔吐と下痢を誘発する。最初に神経を刺激し、次に刺激した神経を麻痺させる。アトロピンは、心拍数の増加、瞳孔の拡張、唾液の減少、汗の抑制、痙攣を引き起こす。ブフォテニンは多くの種の植物に含有され、幻覚作用がある。コロラド・リバー・ヒキガエルの毒にも含まれる。
- プハーリッチ自ら幻覚性キノコを: Puharich, *Sacred Mushroom*, 89.
- p.71 何通か手紙を書いた: James Sexton, ed., *Aldous Huxley: Selected Letters*, 461, 471. The letter referenced is dated August 9, 1955. 本文の手紙の日付は、1955年8月9日。サイはESPとその他の超常現象の未知の要素を指し、ギリシャ語のアルファベットの23番目ψ(サイと発音する)と、ギリシャ語のψυχη(サイキと発音する)の頭文字に由来する。どちらも精神と魂を意味する。
- 一九五五年八月七日: Puharich, *Sacred Mushroom*, 97-98. ハクスリーの説明もプハーリッチのものと同様似ている。
- p.72 覚えていないようだった: Ibid., 98. スタンプの死後に出版された未完の自伝は、子供時代から年代順に記され、1955年8月に唐突に終わっている。プハーリッチは登場せず、ハクスリーにのみ触れている(Ferriss and Stump, *Maine's Psychic Sculptor*も参照のこと)
- p.73 強制収容所を生き抜いた: Ibid., 55. フルコスは、ヴフトまたはヘルツォーゲンブッシュ強制収容所(ブーヘンワルトと誤って報じられている)に収容されていた。フルコスとスタンプが戦時中に同じような経験をしたことは興味深い。ふたりともレジスタンス組織のために働き、ゲシュタポに捕えられて拷問された。
- 先ごろロンドン警視庁と: "The Psychic Powers of Peter Hurkos," *Paris Match*, June 14, 1952, 170.
- バリ・メトロ・ボリス: Browning, *Hurkos*, 74.
- p.74 「フルコスは、ハリー(・スタンプ)に初めて自信をあたえたの」: Hermans, *Memories of a Maverick*, 67-68; interview with Stephanie Hurkos. ステファニー・フルコスに取材。
- 「画期的な成果」: LOC, Marcella du Pont Papers, Round Table Foundation, Progress Report, 1956, n.p.
- p.75 「CIAが自分の研究を」: Hermans, *Memories of a Maverick*, 70-71; author FOIA, CIA: Letter to Mr. Allen W. Dulles, Director, Central Intelligence Agency, from Mary O' [illegible], Secretary to Mr. R. Gordon, Wasson, June 3, 1960. ワッソンは、ムーアがCIAに雇われていると知っていたようだ。
- 公式請求書: author FOIA, CIA: Memorandum for the Record, Subject MKULTRA, Subproject 58, Draft, March 21, 1956.
- 「彼は初めて航海に出た船員のようなだった」: John Marks, *The Search for the "Manchurian Candidate,"* 123. マークスがムーアに取材。
- p.76 「CIAだけの秘密に」: Ibid., 124.
- キノコが根を下ろすにつれて: Hermans, *Memories of a Maverick*, 70-71. ヘルマンズは、プハーリッチの後援者たちにふたりの関係を非難されたと書いている。「ジョイス・パローコヴィッチは、アンドリアと私の“下劣な情事”を知ると、ライндаム号という汽船の切符を手配した」。ヘルマンズはヨーロッパへ送り返され、数カ月後にまた戻ってきた。
- p.77 宇宙にただならぬ執着を示し: Ibid., プハーリッチの日記の引用。
- p.78 ふたりの政府職員: Author FOIA, FBI: "Memorandum for the Record: Subject, Puharich, Henry K. Dr. Round Table Foundation, Glen Cove Maine," from Special Operations Section, Federal Bureau of Investigation. (n.d.) Bureau File No. 63-4036.
- 「キノコの毒性学コンサルタント」: Author FOIA, CIA: "Henry (Andrija) Karl Puharich, Career Resume," n.p., n.d.
- p.79 屋上から身を投げて死んだ: "7-Floor Plunge Kills Mother," *Milwaukee Sentinel*, January 25, 1959.
- 脅さなければならなかった: Hermans, *Memories of a Maverick*, 76, 78. ヘルマンズは、貯金が底をついて生活できなくなるのを心配していた。しかしそうはならず、1959年にプハーリッチが "The Sacred Mushroom" を出版すると、多くの研究機関が彼を雇いたがった。
- p.80 資金を出したのは: Author FOIA, CIA: Puharich, Henry, and Mitchell, Edgar D., Captain. "A Research Program Whose Goal is to Unambiguously Resolve the Question as to Whether or Not Direct Brain Perception and Direct Brain Action Exist," n.d., partially paginated 54-page document.
- 一四人からなる科学的探検隊: John Newland, "The Sacred Mushroom of the Shaman," *One Step Beyond*, January 4, 1961.
- 原子力委員会(AEC)医学研究部門の当局者: Author FOIA, AEC: "Memorandum from Dr. Paul S. Henshaw," November 1, 1963.
- p.81 「情報などの生物学的記憶が」: APS Records, Warren Sturgis McCulloch Papers. "Memorandum from Paul S. Henshaw, Medical Research Branch. Subject: Observations of the Work of Henry K. Puharich, M.D." November 21, 1963, n.p.
- p.82 秘密の契約任務: Author FOIA, CIA: "Henry (Andrija) Karl Puharich, Career Resume," n.p., n.d.; Puharich, Henry, "A Research Program Whose Goal is to Unambiguously Resolve the Question as to Whether or Not Direct Brain Perception and Direct Brain Action

- Exist.” 4.
- p.83 疑似科学の追求: プハーリッチが記録したアリの映像と録音テープは、以下で閲覧可能。University of Minnesota Duluth website, in the Sociology-Anthropology, Culture and Personality archives.  
「戦場での心霊療法」: Author FOIA, CIA: Puharich, Henry, “III. Research Proposal,” n.p., n.d.
- p.84 ラウンド・テーブル財団の元仲間: Author FOIA, CIA: Henry (Andrija) Karl Puharich File, “International Conference, Exploring the Energy Fields of Man, November 19–22, 1970,” program itinerary and overview, n.p., n.d.  
イツァク・ベントフ: Ibid. ベントフは独立戦争のためにイスラエル初のロケットを設計した。また、ステラブル(可動)タイプの心臓カテーテルを設計して、医用生体工学分野で多くの発明が生まれるきっかけを作った。  
長官のリチャード・ヘルムズにまで: クリストファー・キッド・グリーンに取材。

## 第5章 ソ連の脅威

- p.85 世間に知られていなかった: Bergier, *Morning of the Magicians*, French edition. 特筆すべきことに、ノーチラス号の記事は同誌アメリカ版から検閲により削除された。以下も参照。Ioan Mamulas, D.S., “Para-psychological Espionage,” *Geostrategic Pulse* 45, January 5, 2009, International Institute for Strategic Studies, London.
- p.86 匿名を条件に: Gerald Messadie, “The Secret of the Nautilus,” *Science et Vie* (February 1960), 509. 執筆者は判明していない。メサディエはインタビューで、情報はベルジェと「その他の情報源」から入手したと語った。  
海軍はでっち上げだと: 1963年9月8日付の全国紙日曜版「ディス・ウィーク」によると、アメリカ空軍のウィリアム・H・バウアー大佐は「私が参加したというその実験は実施されていない」と語った。  
「ソ連の超心理学研究は」: Author FOIA: ST-CS-01-169-72, “Significance of Parapsychology in the USSR,” July 1972.
- p.87 レオニッド・L・ワシリエフは: Ibid. 情報源として、アナリストは以下を引用した。*Soviet Review* 2, no. 6, June 1961.  
得体の知らないシベリア出身の信仰治療師: Malia Martin, “The Holy Devil,” *New York Review of Books*, December 31, 1964.
- p.88 「テレパシー通信を可能にする」: John D. LaMothe, *Controlled Offensive Behavior — USSR (U)*. Medical Intelligence Office, Office of the Surgeon General, Department of the Army, Defense Intelligence Agency, July 1972, 62; Kernbach, “Unconventional Research in USSR and Russia,” *International Journal of Unconventional Science*, Cornell University (Fall 2013): n.p.  
「テレパシーの誘導要因は」: Author FOIA, CIA: ST-CS-01-169-72, “Significance of Parapsychology in the USSR,” July 1972.  
「人体から発せられる」: Kernbach, “Unconventional Research in USSR and Russia,” n.p.
- p.89 アーネンエルベの研究から派生していた: Ibid., n.p.  
デミチェフ書記に: Ibid., n.p.
- p.90 執務室がある: Gates, *From the Shadows*, 97.  
モスクワ未確認テクニカル・シグナル: Barton Reppert, “Close-up: The Moscow Signal. Zapping an embassy: 35 years later,” Associated Press, May 22, 1988. 35年たっても、このチームの真の目的はまだ議論が続いている。  
無響室: Eugene V. Byron, “Project Pandora, Final Report,” Applied Physics Laboratory, Silver Spring, Maryland, November 1966.
- p.91 彼はシグナルの有害性を: Author FOIA, [D]ARPA: “Memorandum to Mr. R. S. Cesaro, ARPA, from IDA Review Panel. Subject: Flash Report of Pandora/Bizarre Briefing,” January 14, 1969; Minutes of Pandora Meeting of June 18, 1969;  
アルツハイマー病を引き起こす: Author FOIA, [D]ARPA: Minutes of Pandora Meeting of August 12 and 13, 1969. 以下も参照。*Becker, The Body Electric*, Epilogue.
- p.92 「実際の物理的な影響」: Samuel Koslov, “Radiophobia, the Great American Syndrome,” *Johns Hopkins APL Technical Digest* 2 (November 2, 1981): 102.  
「人間への非熱的影響」: Paul Brodeur, *Currents of Death*, 91–92.(ポール・ブローダー『死の電流』荻野晃也、半谷直子訳、緑風出版)
- p.93 彼女はガラスの: 機密解除された映像がユーチューブにて閲覧可能。
- p.94 カエルの心臓の拍動: LaMothe, *Controlled Offensive Behavior — USSR (U)*, 35.  
ペンタゴンのアナリストは書いている: *Paraphysics R&D — Warsaw Pact*. U.S. Air Force, Air Force Systems Command, Foreign Technology Division, Defense Intelligence Agency, March 30, 1978, 8.
- p.95 「五分後、セルゲイエフが」: *Paraphysics R&D — Warsaw Pact*. U.S. Air Force, Air Force Systems Command, Foreign Technology Division, Defense Intelligence Agency, March 30, 1978, 8.  
「もっとも重要な」: LaMothe, *Controlled Offensive Behavior — USSR (U)*, 35.
- p.96 四つの脅威カテゴリー: Ibid., 40.
- p.97 「ゆゆしき事象だ」: Ibid. NARAの記録を調べた結果、著者はコールドウェル

がCIAの人間だったと考えている。

## 第6章 ユリ・ゲラーの謎

- p.101 モシェ・ダヤン・イスラエル国防大臣の自宅: 本章の多くは、著者のユリ・ゲラーへの取材に基づいている。ゲラーが実際にモシェ・ダヤンにマップ・ダウジングをしたと確かめることはできない。ダヤンの盗掘は文書で立証され、彼自身も回顧録で言及のうえ、自宅に陳列された埋蔵物や発掘現場の地図と写真も掲載している。
- 古代集落の遺跡: Moshe Dayan, *Living with the Bible*, 131.
- p.102 大怪我を負い: Yael Gruenpeter, “The Israeli Defense Minister Who Stole Antiquities,” *Haaretz*, December 19, 2015.
- 古代の巨大な石の加工品: Dayan, *Living*, 31. ゲッティ・イメージズのウェブサイトも参照のこと。ダヤンの自宅の写真の多くに古代の遺物コレクションが写っている。
- 「私の能力を利用したんだ」: ゲラーに取材。Dayan, *Living*, 131-133.
- p.103 「古い棒を用いた地下水脈探査」: Arthur J. Ellis, “The Divining Rod: A History of Water Witching,” U.S. Geological Survey, Water Supply Paper No. 416, 1917.
- 「無害で」: Gardner, *Fads and Fallacies*, 102, 113. (マーティン・ガードナー『奇妙な論理』市場泰男訳、早川書房)
- ロンドンのフィナンシャル・タイムズ紙が: Margaret van Hatten, “A Cost-effective Account of the Spoons,” *Financial Times*, January 18, 1986. この記事で、記者のヴァン・ハッテンは、ゲラーの一件100万ポンドという報酬をオーストラリアの鉱物会社ザネックスのピーター・スターリング会長に確認したと書いている。
- 入植者や農夫: “Dowsing,” U.S. Geological Survey, n.d.
- p.104 ベトナム駐留部隊: “Shades of Black Magic: Marines on Operation Divine for VC Tunnels,” *Observer* 5, no. 45, March 13, 1967.
- 「原子力装置が発明された現代でも」: Ibid.
- p.105 「人間による諜報活動」: ルイス・マタシアに取材。以下も参照。Bird, *The Divining Hand*, 200-205.
- 「ドクトリンの策定には」: Bird, *Divining*, 213.
- p.106 「法的に問題のある趣味」: Yael Gruenpeter, “The Israeli Defense Minister Who Stole Antiquities,” *Haaretz*, December 19, 2015.
- 違法に入手したコレクションに言及し: Dayan, *Living*. 本のカバーの記述。
- p.107 母親はさらにこう続けた: Footage from Vikram Jayanti, “The Secret Life of Uri Geller, Psychic Spy,” BBC.
- 「彼は、フォークを」: ゲラーに取材。Geller, *My Story*, 135-136 (ユリ・ゲラー「ユ

- リ・ゲラー わが超能力——それでもスプーンは曲がる!」中山善之訳、講談社)
- p.108 ゲラーは彼に: ゲラーに取材。ゲラー所蔵の写真。Jayanti, “The Secret Life of Uri Geller,” BBC.
- p.109 戦死した: マーヴ紙の死亡記事「ヨアブ・シャハム(ベルンシュタイン)、1935年10月2日生まれ、1966年11月13日死亡」
- p.110 彼の能力にすっかり魅せられた: シピ・シュトラングに取材。
- p.112 テストすることにした: 2016年3月にヤッファにてアムノン・ルービンシュタインに取材。
- p.113 ガマル・アブダル・ナセル: イスラエル国防軍元諜報アナリストのサラ・ジルダーマンに取材。
- p.114 答えたという: メイア首相の正確な引用は以下の通り。「これから起きることをぴったり予知できる若者がいるらしいわ。私には無理よ」
- p.115 こう告げた: Puharich, *Uri*, 63(アンドリヤ・H・プハーリッチ『超能力者ユリ・ゲラー』井上篤夫訳、二見書房)。シュトラングに取材。
- p.116 聖書にも出てくる: 旧約聖書年代記I第29章29節。「ダビデ王の事績は、初期のことも後期のことも『先見者サムエルの言葉』『預言者カタン言葉』および『先見者ガドの言葉』に記されている」
- ほかのほとんどの晩: ギャビー・ベルリンとサラ・ジルダーマンに取材。
- 「当時としては最新式の」: ゲラーに取材。プハーリッチのCIAファイルにも記述がある。
- p.117 以下のように伝えられた: Author FOIA, CIA: Puharich, Henry, “A Research Program Whose Goal Is to Unambiguously Resolve the Question as to Whether or Not Direct Brain Perception and Direct Brain Action Exist,” n.d., 19; Andrija Puharich, M.D., “Program Alpha — Phase I. Preliminary Report on DBA Effects Demonstrated by Uri Geller,” August 17-25, 1971; September 20-29, 1971; November 17, 1971 to April 14, 1972.
- p.118 厄介な火種になりそうだと: Author FOIA, CIA: “Memorandum for: Director of Central Intelligence, W. E. Colby; Subject: Office of Research and Development and Office of Technical Service Paranormal Perception Research Project,” November 23, 1973.

## 第7章 月面に立った男

- p.119 あることを思いついた: ミッチェルに取材。
- p.120 「どれも難解なテーマだったし」: Mitchell, *The Way of the Explorer*, 31(エドガー・ミッチェル『月面上の思索』前田樹子訳、めるくまーる)。ミッチェルに取材。
- 「夜にベッドに」: Mitchell, *Anthology of Psychic Research*, 32.
- p.121 直感的に対処する方法: ミッチェルに取材(談義)。引用の出典は以下の通り。

- Alexander et al., *The Warrior's Edge*, 121, citing Deikman, "Mystical Intuition," *New Realities*, 1987.  
 「万事順調だ、と」: ミッチェルに取材。
- p.122 轟音を立てて: Shepard, et al., *Moon Shot*, Chapter Twenty-Two: Apollo 14: All or Nothing. (アラン・シェパード、ディーク・スレイトン『ムーン・ショット——月をめざした男たち』菊谷匡祐訳、集英社)  
 その起源: "A Planetary Science Strategy for the Moon," Lunar Exploration Science Working Group, NASA, July 1992, 2.
- p.123 一〇億年前に: Mitchell, *Explorer*, 52. (エドガー・ミッチェル『月面上の思索』前田樹子訳、めるくまーる)
- p.124 ゼナー・カード: どれも人間が知るもつとも古いシンボルである。円は太陽と月、(人間の進化過程が進んだあとは)車輪と歯車を表す。歴史を通じて、円は無制限性、完璧性、神性と結びつけられてきた。四つの等角と等辺を持つ四角は、四季、四方、四大元素を意味し、文明と人工物の象徴でもある。五角星は、古代より軍事力と概念を表す表意記号で、図形記号としても使われる。また、スターの地位の象徴でもある。縦横が同じ長さの十字(プラス記号)は宗教的、数学的意味があり、三本の波線は神秘のシンボルとされる。
- p.125 楔形文字が使われていた時代:アーヴィング・フィンケルに取材。
- p.126 「この縮尺はまったく当てにならない」: Apollo 14 Transcript, 359.  
 シェパードがハッチを開けた: Ibid.
- p.127 「集中するんだ」: ミッチェルに取材。セレンディピティについては自著『月面上の思索』と『*Anthology of Psychic Research*』でも語っている。
- p.129 セレンディピティを信じるんだ: ミッチェルに取材。  
 「わたしたちは」: ドン・アイルズに取材。  
 彼はこのさきで重要なキーを: "Apollo 14 Lunar Surface Journal: Landing at Fra Mauro," Corrected Transcript, 1.エドガー・ミッチェルは、この先に待ち受ける作業をやり遂げる自信があったと2015年に回想した。「私ほど月着陸船を知りついている宇宙飛行士はほとんどいない」と確信していたという。
- p.131 「着陸せよ」: Apollo 14 Transcript, 449.
- p.132 二六メートル: Apollo 14, Mission Highlights, NASA (nasa.gov), July 8, 2009.  
 地球の起源がもっとよくなる: Oldroyd, David R., ed. "The Earth Inside and Out," 17; Mitchell, *Explorer*, 52. (エドガー・ミッチェル『月面上の思索』前田樹子訳、めるくまーる)。宇宙時代がはじまって以降、科学者は月面の地図を作成し、宇宙船から撮った画像を天文学から地質学の対象に変えた。地球には、最低100グラムの隕石が毎日50個衝突している。
- p.133 「地球はまったく見えなかった」: Mitchell, *Earthrise*, 110-111.
- p.134 その後、意見の衝突が: Apollo 14 Transcript, 132.
- p.136 ミッチェルが地図を調べた: 128ページの挿入写真。この写真でミッチェルが見

- ているのが地図かチェックリストかで議論が分かれている。地図だと思えば本人は取材で著者に語った。地図は、先史時代からトルコやウクライナの洞窟の壁やバビロンの粘土板に記されて人間の役に立ってきた。
- p.137 「物体が実際の位置より」: Mitchell, *Explorer*, 54 (エドガー・ミッチェル『月面上の思索』前田樹子訳、めるくまーる)。ミッチェルに取材。
- p.138 「わたしたちはカンガルーのように」: Mitchell, *Explorer*, 56. エドガー・ミッチェル『月面上の思索』前田樹子訳、めるくまーる)  
 司令船キティホークと: Apollo 14 Transcript, "Table 6-1, Sequence of Events."
- p.139 「サヴァイカルパ・サマーディ」: ミッチェルに取材。  
 「シェパードは腹がよじれるほど」: Mitchell, *Explorer*, 61 (エドガー・ミッチェル『月面上の思索』前田樹子訳、めるくまーる)。ミッチェルに取材。  
 見出し: "Captain Edgar D. Mitchell, the Uri Geller of the Astronauts," *Maariv*, February 19, 1971.
- p.140 もう以前と同じようには世界を: Mitchell, *Anthology*, 45.  
 「究極のフロンティアだ」: Mitchell, *Anthology*, 28.
- p.141 こうしてアポロ宇宙飛行士が: ミッチェルに取材。

## 第8章 物理学者と超能力者

- p.142 ちょっとした天才: Author FOIA, CIA: Puthoff Resume, "Harold E. Puthoff, Senior Research Engineer, Electronics and Bioengineering Laboratory, Information Science and Engineering Division," submitted to the CIA October 1973.  
 まだ解明されていない重大な問題: パソフに取材。
- p.143 「量子生物学の研究」: パソフへの取材で、プログラムの起源を説明した以下の彼の論文について話した。"CIA-Initiated Remote Viewing at Stanford Research Institute," Association of Former Intelligence Officers, *The Intelligencer: Journal of U.S. Intelligence Studies* 12, no. 1 (Summer 2001).  
 広範な科学研究: Author FOIA, CIA: Hal Puthoff, "Qualifications of Stanford Research Institute," circa 1973.  
 プロジェクト・ライティング: パソフに取材。
- p.144 亜原子粒子に関する仮説: Ya. P. Terletsky, "Positive, Negative and Imaginary Rest Masses," *Journal de Physique at le Radium* 23, no. 11 (1963): 910-920; G. Feinberg, "Possibility of Faster-Than-Light Particles," *Physical Review* 159 (1967): 1089-1105 (1967).
- p.145 嘘がばれることを恐れて: "The Polygraph and Lie Detection," The National Academies Press, Washington D.C., 2003, 13-16.

- p.146 もっと直接的な: Cleve Backster, "Evidence of a Primary Perception in Plant Life," *International Journal of Parapsychology* 10, no.4 (Winter 1968): 329-348.  
大発見の瞬間: 同じ主張をした科学者はバクスターが初めてではない。1848年に実験心理学者のグスタフ・テオドール・フェヒナーが植物は愛情と思いをやりを注いだほうがよく育つと述べているが、この説を大衆に広めたのはバクスターだった。彼は、ジョニー・カーソン、マーヴ・グリフィン、デイヴィッド・フロストのテレビ番組にも出演した。  
CIA工作員のクリスファー・O・バード: バードの生涯は今も謎に包まれている。死亡記事にもあるようにCIAに在籍していたことは多くの情報源が認めた。参考文献と以下も参照。Eric Pace, "Christopher Bird, 68, a Best-Selling Author," *New York Times*, May 6, 1996.  
植物には神経系がない: K. A. Horowitz et al., "Plant 'Primary Perception': Electrophysiological Unresponsiveness to Brine Shrimp Killing," *Science*, August 8, 1975, 478-480; John M. Kmetz, "Plant Primary Perception: The Other Side of the Leaf," *Skeptical Inquirer* 2 (1978): 57-61.
- p.147 チャールズ・ダーウィン: František Baluška et al., "The 'root-brain' hypothesis of Charles and Francis Darwin. Revival after more than 125 years," *Plant Signaling & Behavior* 2, no. 12 (December 2008): 1121-1127. 上記の著者は、ダーウィン最後の著作のひとつで彼が息子とおこなった多数の実験を記録した "*The Power of Movement in Plants*" に言及している。「母なる自然」: Josh Eells, "Cleve Backster, b. 1924. He talked to plants. And they talked back," *New York Times Magazine*, December 21, 2013.  
「片方の培養組織をレーザーで焼き」: Paul H. Smith, *Reading the Enemy's Mind*, 54-55. パソフに取材。
- p.148 母方の祖母も「靈感のある人間」で: マーリン・ライダーに取材(インゴが姓のスペルSwanにnをもうひとつ足していることに注意)。  
生活のために: Swann, "Remote Viewing, The Real Story: An autobiographical Memoir," unpublished autobiography, Chapter 4, 5.
- p.149 上流社会のエンターテイナー: "Buell Mullen, Muralist and Painter on Metals," *New York Times*, September 10, 1986.
- p.150 嫌っていた: Swann, unpublished autobiography, Chapter 12, 14.
- p.152 似たような仮説を: パソフに取材。パソフの文書。パソフの計画書のタイトルは、「心霊エネルギー・プロセスの物理的性質の研究計画書」だった。そのなかで、「ギリシャ語で“敏速”を意味するタキオンということばの使用に注目してほしい」と書いている。  
「有生の物理学と」: Puthoff, *The Intelligencer*, 61. パソフに取材。
- p.153 的中率が一〇〇パーセント: "New ASPR Search on Out-of-the-Body Experiences," Karlis Osis, *ASPR Newsletter* 14 (Summer 1972); Osis, Karlis, and Donna McCormick, "Kinetic effects at the ostensible location of an out-of-body projection during perceptual testing," *Journal of the American Society for Psychical Research* 74, no. 3 (1980).  
「インゴ・スワンを称えるレセプション」: Swann, unpublished autobiography, Chapter 31. スワンによると、パーティーの前週に出版委員会は結果を公表しないと行った。あまりにもよすぎて「何か問題があるに違いない」と思われるからだったという。
- p.154 「バクスターが」: Swann, unpublished autobiography, Chapter 31.
- p.156 「私は、地球上でもっとも」: Puthoff Papers, "Words at Ingo Swann's Memorial Service," n.d.  
海軍研究局: Author FOIA, CIA; H. E. Puthoff and Russell Targ, "Proposal for Research ISU 75-241, Magnetometer Stability Studies," November 14, 1975, 2.
- p.158 「磁力計はさみの真下だ」: パソフに取材。  
クオーク検出器の仕組みを: Author FOIA, CIA; Puthoff and Targ, "Proposal for Research ISU 75-241," 2.  
ESPの積極的な支持者: 2015年6月にイギリスのケンブリッジでブライアン・D・ジョセフソンに取材。
- p.161 「被験者との環境の」: Author FOIA, CIA; Puthoff and Targ, "Proposal for Research ISU 75-241," 1.  
頭をぶつけた: Swann, unpublished autobiography, Chapter 37.  
「能動的攪乱」: Author FOIA, CIA; H. E. Puthoff and Russell Targ, "Technical Memorandum: A Progress Report on Contract Number 1471(S)73," February 23, 1973, 3.  
祝ってアイスクリームを: パソフとエイドリアン・パソフに取材。
- p.162 「ふたりの証明書には」: パソフに取材。H. E. Puthoff, "CIA-Initiated Remote Viewing at Stanford Research Institute," Association of Former Intelligence Officers, *The Intelligencer*, 61.
- p.163 欧米の科学者の大半は: CIAはすでにインゴ・スワンに注目していたようだ。スワンの回顧録によれば、情報部員がニューヨークのASPRのオフィスを訪問し、カーリス・オシスとジャネット・ミッチェルにスワンのことを尋ねていた。グリーンに取材。
- p.165 ユリ・ゲラーもSRIに連れてきて: グリーンとミッチェルに取材。ゲラーの実験は民間の研究を装って実施されなければならなかった。  
「スワン=ゲラー効果」: Author FOIA, CIA: "Some Reflections on Parapsychological Phenomena in the Intelligence Community," Draft, 23 Jan 73 (n.p., 10 pages).

## 第9章 懐疑論者対CIA

- p.166 「超常現象そのものを」: Author FOIA, CIA: “Suggested PR Release in the event the DCI is queried about Agency Involvement in Paranormal Research,” n.p., n.d. 原本では、傍点部分に下線が引かれている。  
招集された者は: Author FOIA, CIA: “Memorandum For (See Distribution), Subject: Proposed Investigation of Paranormal Phenomena,” n.p., n.d.
- p.167 米国聖公会の神父になろうと: グリーンに取材。グリーンの公式な政府での職務経歴書は以下を参照。“Emerging Cognitive Neuroscience and Related Technologies,” Committee on Military Intelligence Methodology, National Research Council, National Academies Press (2008), Appendix A, 91.  
さまざまな職務に携わった: グリーンに取材。インゴ・スワンの最初の実験を監督した男たちは、研究開発室の職員だった。
- p.168 医学的検査の監督: グリーンに取材。Author FOIA, CIA. “Summary Tests,” n.p., n.d. 検査には、EEG(脳波記録検査)、ブッシュ記憶テスト、ノックス・キューブ・テスト、主題統覚テスト、言語概念達成テスト、ハルステッド=ウェブマン失語スクリーニング検査、バンダー=ゲシュタルト視覚運動検査、ウェクスラー成人知能検査、ミネソタ多面人格検査、ロールシャッハ・インクプロット検査などがあつた。X線画像とコンピュータを組み合わせたCTスキャン技術は、70年の歴史を持つX線技術を著しく向上させた。  
「脳の断層写真」: グリーンに取材。当初、グリーンはCIA本部にある自分のオフィスで、SRIと契約した現地の医師からの報告書を分析していた。その後、SRIまで足を運んでサイキックを詳しく調べるようになった。
- p.169 ロサンゼルス・マインド・サイエンス研究所: Author FOIA, CIA: Puharich, Henry, and Mitchell, Edgar D., Captain. “A Research Program Whose Goal Is to Unambiguously Resolve the Question as to Whether or Not Direct Brain Perception and Direct Brain Action Exist,” n.d.  
アメリカ到着までの数カ月間: ゲラーの写真。ゲラーに取材。
- p.170 初の面談相手: エド・ミッチェルとユリ・ゲラーへの取材、ふたりの所蔵写真。フォン・ブラウンとの会談はミッチェルが手配し、メリーランド州ジャーマンタウンにあるフェアチャイルド・インダストリー社のフォン・ブラウンのオフィスでおこなわれた。  
あるニュース記事: Lee Rickard, “Psychics and Scientists,” *Observer* 17, no. 2 (June 1, 1973). 2016年3月にイスラエルのヤッファにてゲラーに取材。
- p.171 ベンタゴンのアナリスト: P. T. Van Dyke and M. L. Juncosa, “Paranormal Phenomena — Briefing on a Net Assessment Study,” WN-8019 ARPA, January 1973, 2.
- p.172 「ICBMの誘導プログラム」: Ibid., 6.  
重要な課題: Ibid., 27.  
パソフは覚えている: パソフに取材。
- p.173 「一〇〇万分の一」: Author FOIA, CIA: Puthoff and Targ, “Technical Memorandum: A Progress Report on Contract Number 1471(S)73, Task 3; Experimentation with Uri Geller. February 22, 1973, 10.
- p.174 一兆分の一: Ibid., 11.
- p.175 「明白な能力」: Ibid., 13. 科学者たちは、磁石を使ったり静電気を放電したりして実験が「偽りだと暴こう」とした、とCIAへの報告書に記している。そうした試みでは、秤は動かなかつた。  
部下にゲラーをテストさせたい: 映画 *An Honest Liar* の20:15からはじまるレイ・ハイマンのインタビューにて引用。  
タイム誌が報じた: Leon Jaroff, “The Magician and the Think Tank,” *Time*, March 12, 1973.
- p.177 ローレンスはジャーロフに: Author FOIA, CIA: “Memorandum for C/ IP&A/ORD, Subject: Briefing by Stanford Research Institute,” January 24, 1973.  
暴露記事を掲載する: Leon Jaroff, “The Magician and the Think Tank,” *Time*, March 12, 1973. レイ・ハイマンはタイムズ紙に、SRIの実験は「信じがたいほどずさん」だったと語つた。  
「ローレンスはタイム誌と話していないという」: Author FOIA, CIA: “Subject: More Geller Business,” February 28, 1973.  
反ゲラー運動: Ibid.  
「SRIは破壊されるべきだ」: John Wilhelm, *The Search for Superman*, 28.  
「ゲラーは私の芸術を汚している」: ジェームズ・ランディに取材。James Randi, *The Magic of Uri Geller*, 5.
- p.180 「科学的に説明のつかない」: Author FOIA, CIA: H. E. Puthoff and Russell Targ, “Perceptual Augmentation Techniques,” Proposal for Research, October 1, 1973, 23:「この実験期間でゲラーが収めた成功の結果、われわれは彼が超常的知覚能力を説得力のある明白な方法で実演したと認める」  
「あるかもしれない」: Author FOIA, CIA: “Memorandum for the Director,” January 1973.  
ヘルムズに宛てた局内覚書: Author FOIA, CIA: Memorandum for Director of Central Intelligence: Subject: Office of Research and Development and Office of Technical Service, Paranormal Perception Research Project DD/S&T 3697-73, 1.
- p.181 「超常的知覚現象」: Ibid., 3.
- p.183 ロサンゼルス会議: バット・プライスが言った会議とは、サイエントロジーの集会

だった。著者はこの件についてパソフとほかの関係者たちから話を聞いた。パソフは彼がサイエントロジーの会員だったというマーティン・ガードナーの批判に対し、2007年にスケプティカル・インクワイアラー誌に声明を発表した。内容は以下の通り。「ガードナーは、1970年代初めの私の信念とサイエントロジーとの短期間のかかわりを長々と批判した。その件について答えよう。彼は私がこの団体ともう記録上は無関係だと認めたが、“この団体の教義をまだ信じているのではないか?”と疑問を呈した。私が“まだ信じている”のは、GSR(電気皮膚反応)に青年時代のトラウマ的な記憶を掘り返す感情浄化効果があるということだ。それを知ったのは、1960年代の初め、私がNSA(国家安全保障局)の職員だったときに定期的に受けたポリグラフの最中だ。この経験がきっかけで、のちに好奇心からサイエントロジーの手順を経験的かつ直接的な観点から調べるようになった。しかし、サイエントロジーの倫理には限定的な信念構造につきものの欠陥があり、それに加えていくつかの致命的な欠陥も生じつつあるのが明白になったので、この団体と絶縁した。皮肉なことに、マーティン・ガードナーや彼の仲間からサイエントロジーの会員だったと非難されていたあいだ、私はサイエントロジーの批判者たちを公に支持しているという理由でサイエントロジーから監視されていた」

## 第10章 遠隔視

- p.185 「こんなESP実験は」: Targ and Puthoff, *Mind Reach*, 27. (ハロルド・パソフ、ラッセル・ターグ『マインド・リーチ——あなたにも超能力がある』猪股修二訳、集英社)  
実際のスパイ活動では、クライアントがCIAであることは、スワンに秘密にされていた。しかし未刊行の回顧録で、彼は知っていたと述べている。
- p.186 史上初のコンピュータ・データを使った: ヴァレに取材。  
「私は彼に」: ヴァレに取材。
- p.187 「仮想アドレス指定」: Vallee, *Forbidden Science* 2, 194.  
「明らかに知覚では」: Ibid., 193.
- p.188 パソフはそう反対したのを覚えている: パソフに取材。以下にも記述あり。Puthoff, *The Intelligencer*, 63.
- p.189 「ラスという名前も本名ではなかった」: グリーンに取材。  
次のようなアドレス: Author FOIA, CIA: H. E. Puthoff and Russell Targ, “Perceptual Augmentation Techniques, Part One — Technical Proposal,” ORD #4718-73, October 1, 1973, 7-9. GPS coordinate (latlong.net) is: 38° 34' 15.8484" N, 79° 16' 28.3836" W.
- p.191 「彼がその日に電話してきたのは」: パソフに取材。
- p.194 秘密の暗号名: Kenneth A. Kress, “Parapsychology in Intelligence: A Personal Review and Conclusions,” *Studies in Intelligence* 21 (Winter 1977): 10.

- 「何もかもばかげてる」: グリーンに取材。
- p.195 国家安全保障局(NSA)と一部共同で: パソフとグリーンに取材。
- p.196 「大がかりな捜査」: パソフに取材。  
プライスはこう答えたという: グリーンに取材。
- p.197 仕事を転々とした: John L. Wilhelm, *The Search for Superman*, 208.  
バーバンク警察委員会: 2016年1月にバーバンク警察委員会公務担当報道官に取材。Wilhelm, 229.
- p.199 「私が興味を持ったのは」: グリーンに取材。
- p.201 超常現象を引き起こす力: グリーンに取材。この実験で、グリーンはSRIのプロトコルを破り、即興で場所を変更することで不正ができる機会をゼロにした。  
パークレー警察がプライスに協力を: Author FOIA, CIA: “Memorandum for the Record. Subject: Operational Use of Paranormals in Police Activities,” n.d., 2.
- p.203 セミパラチンスク核実験場: Star Gate Collection, CIA: “Space Nuclear Facility test capability at the Baikal-1 and IGR sites Semipalatinsk-21, Kazakhstan.” n.p., n.d.  
URDF-3: ソ連はこの実験場をバイカル-1と呼んでいた。この地下施設で原子力推進プロジェクトが進行しているとアメリカ諜報機関が知るまでに20年以上を要した。ネヴァダ核実験場にある姉妹サイトのジャッカス・フラッツのように、バイカル-1ではソ連が火星への有人飛行のために原子力推進技術の開発に取り組んでいた。  
パソフがそれらのことばをメモした: パソフはこのセッションに参加したことをインテリジェンサー紙の記事で初めて語った。包括的な説明については、以下を参照。Kress, “An Analysis of a Remote-Viewing Experiment of URDF-3,” December 4, 1975.
- p.206 プライスは告げ: Star Gate Collection, CIA: Kress, 12; “An Analysis of a Remote-Viewing Experiment of URDF-3,” 4, 28.  
「研究の厳格性が」: Ibid., 11.  
「KGBの虚偽情報部門」: Ibid., 24.
- p.207 「“転向”経験」: Ibid., 7.  
「自分が客観的に評価できるとは」: Kress, “Parapsychology in Intelligence,” 14.  
「本物の現象として存在する」: Author FOIA, CIA: “C/AOB/OTS: Memorandum for the Record: Subject: “Parapsychology/Remote Viewing,” April 20, 1975; J. A. Ball, “An Overview of Extrasensory Perception: Report to CIA.” January 27, 1975.  
「疑わしいが」: Kress, “Parapsychology in Intelligence,” 15.

## 第11章 無意識

- p.209 脳を利用する: CIA (digital collection): "Summary of Remarks by Mr. Allen W. Dulles at the National Alumni Conference of the Graduate Council of Princeton University," Hot Springs, VA, April 10, 1953.  
「マインド・プロジェクト」: Author FOIA, CIA: "Some Reflections on Parapsychological Phenomena and the Intelligence Community" (concerning the Swann-Geller phenomena), Draft January 23, 1973, n.p.
- p.210 「注意深く管理された実験」: Author FOIA, CIA: "Memorandum for C/ IP&A/ORD," January 24, 1973.  
「歯に隠せる」: Dr. Joseph Hanlon, "Uri Geller and Science," *New Scientist*, October 17, 1974; author FOIA, CIA: Subject, "More Geller Business," February 28, 1973.  
マジシャンのジェームズ・ランディが: Author FOIA, CIA: Subject: "Special Management Guidelines for the SRI Paranormal Project," January 15, 1974.  
「ゲラー・ブームのもっとも重要な結果は」: John Palmer, "An Evaluative Report on the Current Status of Parapsychology," Army Research Institute for the Behavioral and Social Sciences, U.S. Army, May 1986, 195. この報告書は、超心理学の20年間を網羅している。  
それは一九七三年一月二三日: このラジオインタビューはBBC 2で見つからなかったため、本書で取り上げたエピソードはゲラーが1975年に回顧録で語ったものである。CIAの文書にはこのラジオ番組の記述があり、そのなかにはゲラーに関するメディア報道 "Geller and New Scientist" と "Geller, Dimpleby Talk-In, press conference BBC Lime Grove (London)" の要約が含まれている。
- p.213 一覧表が掲載された: "Gellermania," *Sunday People*, November 1973.  
国防当局者から宗教指導者、セレブリティまで: Geller, *My Story*, 51. (ユリゲラー『ユリゲラー わが超能力——それでもスプーンは曲がる!』中山善之訳、講談社)
- p.214 「理性対非理性」: Sagan, *Broca's Brain*, 72.
- p.215 物理と意識と無意識の関係: Wolfgang Pauli and C. G. Jung, "Atom and Archetype: the Pauli/Jung Letters."
- p.218 「磁気プログラム・カードの」: R. S. Hawke, "Outline of Acoustic Emission Experiments Performed With a Person Reputed to Have Paranormal Metal Bending Abilities," Lawrence Livermore Laboratory, University of California, Livermore, California, January 11, 1979.
- p.220 グリーンはパソフとターゲットに: グリーンに取材。この時期については今も議論が分

かれている。1974年秋だったと言う者もいれば、1975年冬だとする者もいる。以下も参照。Vallee, *Forbidden Science* 2, 291.

ホログラム: Author FOIA, CIA: "Dr. Steven A. Benton, circa 1968, and Lloyd Cross, circa 1972"; "lasers: Charles H. Townes, 1960"; "UAV, Insectohtoper," 1972.

- p.221 お告げかメッセージ: キット・グリーン、ハル・パソフ、ジャック・ヴァレに取材。ゲラーは、この件を知ったのはずっとあとになってからだと2016年に語った。  
「機密性を強化」: Author FOIA, CIA: "OTS/SDB: Notes on Interviews with F. P. E. L. C. J. K. G., and V.C.," January 1975; Kress, "Parapsychology in Intelligence," 15.
- p.222 さまざまな噂: 著者は、パット・プライスの死についてグリーン、パソフ、ヴァレをはじめ、この期間にプロジェクトにかかわっていた全員と話をした。
- p.223 「PKを使って人間の心臓を」: John D. LaMothe, *Controlled Offensive Behavior — USSR (U)*, Medical Intelligence Office, Office of the Surgeon General, Department of the Army, Defense Intelligence Agency, July 1972, 40.  
心臓発作に見せかけて: チャーチ委員会の聴聞会での元CIAの毒物学者マアリー・エンブリーの証言。CIAは、ソ連の取り組みに遅れまいとただけだと自己弁護した。  
「サイエントロジーのオフィスを強制捜索」: Vallee, *Forbidden Science* 2, 392.

## 第12章 潜水艦

- p.226 ELFは電磁スペクトルのなかで: 潜水艦の伝達システムとしてELFを使うことは、DARPAの科学者ニック・クリストフィロスが1958年に提案した。きわめて機密度の高いそのプロジェクトは、〈プロジェクト・サングウィン〉と呼ばれた。以下も参照。Jacobsen, *The Pentagon's Brain*, 67-71 (アニー・ジェイコブセン『ペンタゴンの頭脳』加藤万里子訳、太田出版)。  
核攻撃後の予備通信手段: Dr. Jack P. Ruina, Oral History with Finn Aaserud. American Institute of Physics, August 8, 1991.  
ウサギ: Dale E. Graff, *Paraphysics R&D — Warsaw Pact*, 11-12.
- p.227 実験を提案しようと: シュワルツに取材。
- p.228 海軍は: White House Record Office, Gerald R. Ford, Presidential Library, House of Representatives, Report No. 94-1305, 94th Congress, 2d Session, Title I — Procurement, June 25, 1976, 56-62.  
人目を引くかのように: R. Targ, E. C. May, H. E. Puthoff, D. Galin, and R. Ornstein, "Sensing of Remote EM Sources (Physiological Correlates)," SRI International, Final Report on Naval Electronics Systems Command Project, April 1978. 以下も参照。Ronald M. McRae,

- Mind Wars*, 5.  
「ELFとマインド・コントロール」: John L. Wilhelm, “Psychic Spying? The CIA, the Pentagon and the Russians Probe the Military Potential of Parapsychology,” *Washington Post*, August 7, 1977, B-1.  
嘆いた: Ibid., B-5.
- p.229 ひそかに同じ信号を: Author FOIA, CIA: “Project Pandora, Final Report.” Applied Physics Laboratory, Silver Spring, MD, November 1966.
- p.230 執務室がある場所: Robert M. Gates, *From the Shadows*, 97.  
コルビーは、大使に: Star Gate Collection, CIA: “Memorandum, From Director Colby, To: [redacted],” November 26, 1975.  
さらに強力になっていた: ワシントン駐在のソ連公使ユーリ・ウォロンツォフは、EM信号縮小に取り組むと記した覚書をハイランドに渡した。ロバート・ゲーツによれば、MUTSに関して米ソ間でそれ以上の交渉はなかったという。
- p.231 正式に抗議を申し入れ: Gates, 97.  
「ロシア人が大使館内の」: Paul Brodeur, *The Zapping of America*, 213.
- p.232 がんで亡くなった: チャールズ・ポーレンとルウェリントーマスの死亡記事。チャールズ・ポーレンは1953年から1957年のソ連駐在大使。1974年1月1日に膀胱がんですでに亡くなっていた。享年69歳。ルウェリントーマスは1957年から1962年と1967年から1969年のソ連駐在大使。1972年2月6日にがんが死亡。享年67歳。  
機密および非機密契約: Allan Frey, “Effects of Microwaves and Radio Frequency Energy on the Central Nervous System,” Clearinghouse for Federal and Scientific Information, U.S. Department of Commerce, September 17, 1969。フレイについての詳細は、以下のウェブサイトを参照のこと。Cellular Phone Task Force organization (cellphonetaskforce.org), “The Work of Allan H. Frey”.  
「比較的単純な」: Allan H. Frey, “Electromagnetic field interactions with biological systems,” National Center for Biotechnology Information, National Institutes of Health, *News and Features*, 272。[1975年にアナリーズ・オブ・ニューヨーク・アカデミー・オブ・サイエンスに発表された調査で、フレイはマイクロ波が循環系と脳のあいだの障壁に“漏れ”を生じさせることができると報告した。血液脳関門の破壊は、血液中のバクテリア、ウイルス、毒素の脳への侵入を招くため重大な問題である。つまり、脳の環境は神経細胞が正常に機能するために安定を保たなければならないが、それが危険な方法で乱されうるということだ]
- p.233 「それは正しくない」: Frey, “Effects of Microwaves,” 3。  
お粗末な翻訳: Ibid., 3。  
マイクロ波ビームのパルス数: Robert O. Becker, *The Body Electric*, 319。  
ペンタゴンのためにマイクロ波兵器の: ロバート・O・ベッカーの死亡記事。*Walters Daily Times*, May 29, 2008.
- p.234 「人道に反すると考えた」: Dennis Hackett, “Sinister Signals on the Radio,” *New Scientist*, September 1984。  
「大使館職員たちを低レベルの」: Becker, *The Body Electric*, 310.
- p.235 「幻覚と変性意識状態を促進」: E. C. Wortz et al., “Novel Biophysical Information Transfer Mechanisms (NBIT),” January 14, 1976, AiResearch Manufacturing Company of California, 48。  
「秘密の超心理学研究所」: Ibid., 18。  
「思考伝達が実際に起きること」: Ibid., 3。
- p.236 半年前の: スティーヴン・シュワルツに取材。  
「三日間使っていていい」: “The Realm of the Will,” *Explore* 1, no. 3 (May 2005): 204。
- p.237 パソフはこの申し出に: パソフとグラフに取材。Star Gate Collection, CIA, “Long-Distance Remote Viewing from a Submersible,” 33, n.d.
- p.240 撮影隊に: モビウス・グループが撮影した映像は、ユーチューブの“In Search of” (6分23秒のところ)にて閲覧可能。
- p.241 フェイル・セーフ・プロトコル: Star Gate Collection, CIA, “Long-Distance Remote Viewing,” 36–42。  
報告書: Ibid. 以下も参照。Puthoff, Targ, May, Swann: “Advanced Threat: Technique Assessment. Final Report, October 1978”; Jim Schnabel, *Remote Viewers: The Secret History of America’s Psychic Spies*, 207。(ジム・シュナーベル『サイキック・スパイ——米軍遠隔透視部隊極秘計画』高橋則昭訳、扶桑社)
- p.242 ブッシュは: エドガー・ミッチェルに取材。

### 第13章 超物理学

- p.245 正式に: Author FOIA, CIA: Untitled timeline, “Secret: Date/Event/Comments,” from September 1977 through January 31, 1986。以下も参照。“Memorandum for the Record,” Grill Flame Briefing, December 27, 1979。この文書のなかで、CIAの技術支援室のデイヴィッド・ブランドワイン室長は、CIAが「われわれのプログラムの進展と(その)適用」を実施するようライト・パターソン空軍基地の外国技術局に勧めたと記している。  
「誰も引き受けたがらない」: グラフに取材。DIAは、最終的な研究論文を“機密”ではなく、国防総省全体でより広範に共有できる“極秘”に分類することを望んだ。
- p.246 「機械翻訳システム」: Dale E. Graff, *Paraphysics R&D — Warsaw Pact*, 29。グラフに取材。  
手短に触れた: Ibid., 42。グラフは、それまでにない電磁理論に特別に注意を

払った。ソ連軍の科学者A・V・コーガン博士は、超能力は「ひょっとすると神経線維に沿って低速で流れる電流が、非常に長い波長を感知するアンテナのように作用する結果かもしれない」と考えた。もうひとつの理論は、「脳内の低い電磁周波数が、環境の自然の固有周波数に同調するか反応する」というものだった。

グラフは振り返る: グラフに取材。

- p.251 「話題にすることはなかった」: デール・グラフとバーバラ・グラフに取材。
- p.257 「地図をスケッチし」: Author FOIA, CIA: Rosemary Smith's map can be seen in a draft of a report, "Project Sun Streak: Psychoenergetics," #10L3162-1, 20 (n.p.).
- p.259 「その場所に印をつけた」: グラフに取材。
- p.260 機密解除された参謀会議議事録: Dale Graff papers, "DDO Staff Meeting Minutes #86 — Parapsychology," March 28, 1979.  
カーターはこの事件が実際に起きたことを: "Psychic helped locate downed U.S. plane, ex-President says," Reuters, September 21, 1995.
- p.261 人体内の電気信号: グラフに取材。Paul H. Smith, *Reading the Enemy's Mind*, 101.
- p.262 準備資金は推定: "Report of Secretary of Defense Harold Brown to the Congress on the FY 1981 Budget, FY 1982 Authorization Request and FY 1981-1985 Defense Programs," January 29, 1980, 85-90. 移動式ICBMの研究は1971年にはじまった。
- p.263 シェルゲーム: General Allen featured on PBS, "Open Vault," February 21, 1987.
- p.264 一通の手紙が届いた: Dale Graff papers, "From the Director of Central Intelligence, Washington, DC 20505, To Dale E. Graff, Advanced Research Branch, Department of the Air Force, Headquarters Foreign Technology Division, Wright-Patterson Air Force Base, Ohio 45433, December 31, 1980."
- p.265 〈心霊エネルギー〉という機密プログラム: "Grill Flame Project Report," Defense Intelligence Agency Directorate for Scientific and Technical Intelligence, October 19, 1983, 1. この文書は、プログラムの起源とそのDIA主導の初期目標を説明する最初の包括的概要だった。  
「推測的で裏づけがない」: Author FOIA, CIA: "An Overview of Extrasensory Perception," January 27, 1975.

## 第14章 サイキック兵士

- p.266 陸軍施設を訪れ: アトウォーターに取材。以下も参照。Atwater, *Captain of My Ship, Master of My Soul*, 51.
- p.269 侵入テクニック: Author FOIA, DIA: "Subject: Briefing Request, Major

Robert E. Keenan, Chief OPSEC Spt. Division," May 15, 1978.

OPSECが将来脆弱性を: アトウォーターとグラフに取材。

「特異な偵察」: Star Gate Collection, CIA: Major Murray B. Watt, "INSCOM Project Grill Flame Progress Report #1," February 21, 1979.

- p.270 ESPとPKに興味を: Jim Schnabel, *Remote Viewers: The Secret History of America's Psychic Spies*, 14. (ジム・シュナーベル『サイキック・スパイ—米軍遠隔透視部隊極秘計画』高橋則昭訳、扶桑社)  
「証拠があった」: Major General Edmund R. Thompson (retired), interviewed on *The Real X-Files*, Independent Channel 4, British Equinox, August 27, 1995, minutes 5-6.
- p.271 予算請求書: スキップ・アトウォーターに取材。ウェブサイト skipatwater.com の "Counterspy" にてオンラインで閲覧可能。キーワードは "Opening Stargate"。面接者の大半: マクモニーグルに取材。米国写真解析センターは1961年に創設され、国防総省の共同アセットでもあった。
- p.272 軍にすべてを捧げて: マクモニーグルに取材。以下も参照。McMoneagle, *The Stargate Chronicles: Memoirs of a Psychic Spy*, 59. (ジョー・マクモニーグル [FBI超能力捜査官ジョー・マクモニーグル] 中島理彦訳、ソフトバンクパブリッシング)  
盗聴防止設備のある部屋に出頭する: Star Gate Collection, CIA: "Memorandum for the Record, Subject: INSCOM Project Grill Flame: Progress Report #1, Period Covered, October 1978-February 1979," February 21, 1979, 16.  
こんなふうに戻事をした: マクモニーグルに取材。以下も参照。McMoneagle, *The Stargate Chronicles*, 71. (ジョー・マクモニーグル [FBI超能力捜査官ジョー・マクモニーグル] 中島理彦訳、ソフトバンクパブリッシング)
- p.274 プライスは、アウトバウンダーたち: パソフの文書。以下のCIAの機密解除された映像。"The Case of ESP," *NOVA*, WGBH, Boston, 1984.  
パソフと一対一で: パソフとマクモニーグルに取材。
- p.275 同じ部隊の仲間も: Star Gate Collection, CIA: Kress, "Parapsychology in Intelligence," 16.
- p.277 身の毛がよだつような思い: マクモニーグルに取材。McMoneagle, *The Stargate Chronicles*, 49. (ジョー・マクモニーグル [FBI超能力捜査官ジョー・マクモニーグル] 中島理彦訳、ソフトバンクパブリッシング)
- p.278 「臨死」: マクモニーグルに取材。
- p.279 マクモニーグルは承諾し: Star Gate Collection, CIA: "Grill Flame Project Report," Defense Intelligence Agency, Directorate for Scientific and Technical Intelligence, October 19, 1983, 6.  
チームには、ほかに: アトウォーター、グラフ、マクモニーグルに取材。ハートレイトレントは、メイン州で海軍特殊部隊向けの寒中サバイバル・スクールの運営を

- 手伝っていた。
- p.280 ダウンタイムがふんだんに: アンジェラ・デラフィオラに取材。  
陸軍の初期の覚書: Star Gate Collection, CIA: Subject: "Briefing to the Commander, IAGRA-OPO," Signed Major Robert E Keenan, May 15, 1978.
- p.281 正式に情報提供を依頼した: Star Gate Collection, CIA: Subject: Transcript Remote Viewing (RV) Sessions C 54 and C 55, Summary Analysis, n.p., n.d.
- p.282 「ガス・プラントみたいな臭いがする」: Ibid., 3-5.
- p.282 「サメのひれによく似ている」: Ibid., 6.  
「建物のなかに潜水艦みたいな」: Star Gate Collection, CIA: Subject: Transcript Remote Viewing (RV) Session C 55, 3-5.
- p.283 「この棺型のものは?」: Ibid., 10.  
NSCに送られた: "Soviet anti-submarine warfare," Jimmy Carter Presidential Library and Museum, Office of Staff Secretary; Series: Presidential Files; Folder: 9/11/79; Container 129.  
KH-9スパイ衛星が: National Reconnaissance Office, "KH-9 Panoramic Camera Image of Typhoon Class Submarine at Severodvinsk, Mission 1217-4" (www.nro.gov).
- p.285 一〇〇枚以上はありそうな大量の写真: Author FOIA, CIA: Photos "Iran WAC 428B, Tehran. Interior room of the US Embassy after militants seized the embassy and took 60 hostages," November 8, 1979.  
統合参謀本部: "Memorandum for LTC Watt, Subject Interim Evaluation, Grill Flame Project," March 10, 1980, signed by LTC Lenahan.
- p.286 ビューアーは「コミテという」: Star Gate Collection, CIA: "GRILL FLAME Evaluation in Support of Iranian Hostage Situation," March 16, 1981; "Summary of Iranian Remote Viewing Sessions CD-06 and CD-16, Shiraz, Qom."
- p.287 「炎と死」: フェーン・ガーヴィンに電話で取材。  
「イラン現地時間午前三時」: Star Gate Collection, CIA: Transcript, Remote Viewing (RV) Session CCC84, 24 April 1980.  
マクモニエールの記憶によれば: マクモニエール、アトウォーター、ガーヴィンに取材。
- p.288 ガーヴィンもあとに続いた: ガーヴィンに取材。
- p.289 アヤトラ・ホメイニ師が: Rouhullah al-Mousawi al-Khomeini, "The Failure of the U.S. Army in Tabas," April 25, 1980 [Ordibehesht 5, 1359 AHS/ Jamadi ath-Thani 9, 1400 A].  
「おれたちがここでしていることは何なんだ?」: 著者はこの質問を、1972年から現在までにこの件に答えられる立場にあった取材相手全員に尋ねた。

## 第15章 気功と銭学森の謎

- p.291 耳で文字を「読む」ことができる: Author FOIA, CIA: "Chronology of Recent Interest in Exceptional Functions of the Human Body in People's Republic of China," n.p., n.d.  
中国の哲学、科学、国政術を形作ってきた: 以下を参照のこと。*I Ching: Book of Changes*, translated by Richard Wilhelm, with "Introduction to the *I Ching*."
- p.292 CIAとDIAは: Author FOIA, CIA: "Psychoenergetics Research in the People's Republic of China," October 1982, 1-5.
- p.294 EHBHを持つ子供たち: Puthoff, "Psychoenergetics Research," 1.  
政府公認会議: Ibid., 2.
- p.295 「この新しい能力は」: Author FOIA, CIA: China's *Ziran Zazhi (Nature Journal)*, September 1979.  
PKも含む: Author FOIA, CIA: CIA translation of an article in *People's Daily*, May 1979.
- p.296 鉛製の容器を通して物を見る: Author FOIA, CIA: Dongsu, Luo, "Discussion of Non-Visual Recognition of Images and Electromagnetic Sensor Mechanism in the Human Body," Translation Division, Foreign Technology Division, Wright-Patterson AFB (January 1981).
- p.297 医療制度: David A. Palmer, *Qigong Fever: Body, Science, and Utopia in China*, 33.
- p.298 気功は急速に拡大した: David Eisenberg, *Encounters with Qi: Exploring Chinese Medicine*, 154-155. (デヴィッド・アイゼンバーグ、トーマス・リーライト「気の遭遇——ハーバードの医学者が中国で「気の謎」に挑んだ!」林幹雄訳、JICC出版局)
- p.299 全国的な訓練コース: Palmer, *Qigong Fever*, 41.  
吊るし上げの的になった: Ibid., 43.
- p.301 その優秀な頭脳は: "Guggenheim Jet Propulsion Center," *CALCIT: The First Twenty-five Years*, 49.
- p.302 毛沢東主席の科学顧問: Iris Chang, *Thread of the Silkworm*, 246. 故チャンは「チェンが毛に何を教えたのか正確なことはわからない。しかし、毛の学習意欲を必ずしも刺激しなかったようだ。毛は、真実の鍵を握るのは労働者階級だけだと確信していた」と書いた。チェンはずっとのちに、毛の目的は「私に労働者たちから学ぶよう勧めること、彼らを自分の教師と見なすこと、真剣に努力をして私の世界観を再構築するよう促すことだった」と書いている。
- p.304 国防部第五研究院の院長: Chang, Ibid., 219.
- p.305 第五〇七研究所: Author FOIA, CIA: "Chronology of Recent Interest in Exceptional Functions of the Human Body in People's Republic of

- China.” n.p., n.d. 「人民解放軍第236部隊 生物物理学研究所 中国科学院 航天医学工程研究所」とも呼ばれていた。
- 科学が再び脚光を浴びるようになり: Chang, *Thread of the Silkworm*, 256. 宇宙空間と精神空間: Author FOIA, CIA: “The Opening and Development of the Basic Research of Human Body Science, by Qian Xue Sen” (DIA handwritten translation), June 30, 1981.
- p.306 語っている: Author FOIA, CIA: Ibid.; Author FOIA, CIA: “Man in Cosmic Environment—Anthropic Principle, Somatic Science and Somatology,” by Qian Xue Sen, circa 1981. 「生体学とは、伝統的な生理学、現代心理学、精神生理学、神経科学、中国の伝統医学と気功(超越瞑想)の科学的な部分、その他の関連テーマを統合したものである」と、チェンは書いた。「戦争では」: Author FOIA, CIA: “The Opening and Development of the Basic Research of Human Body Science, by Qian Xue Sen” (DIA handwritten translation), June 30, 1981, 13. 「熱狂的な雰囲気」: Ibid., 49. 科学者、ジャーナリスト、パソフに取材。
- p.307 パソフは、六〇ページの機密報告書を: Harold E. Puthoff, “Psychoenergetics Research in the People’s Republic of China,” October 1982. 「他国の心霊エネルギー研究が」: “Grill Flame Project Report,” Defense Intelligence Agency Directorate for Scientific and Technical Intelligence, October 19, 1983, 1, 3.
- p.308 「元老」: Puthoff, “Psychoenergetics Research,” 12. 追加資金を計上する: “Grill Flame Activity, Memorandum for the Asst. Sec Army for RD&A, et al.,” January 19, 1983.
- p.310 フックは回想した: Jack Houck, “PK Parties,” jackhouck.com; Severin Dahlen, “Remote Annealing of High Carbon Steel Parts,” Archaeus, February–March 1986, 3.
- p.311 約一〇〇〇人: International Remote Viewing Association, Jack Houck, Biography. 1981年から2003年にかけて、フックは370回のPKパーティーのデータを収集し、公表した(jackhouck.com)。
- p.314 サイキックがスケッチした: Star Gate Collection, CIA: “Interim Report Given to the U.S. Secret Service on 14 December 1981,” Memorandum for Commander, SRD/ITAC, From: Ltc. Robert J. Jachim, Grill Flame Project Manager.
- p.315 〈グリル・フレーム〉補佐チーム: Star Gate Collection, CIA: “Grill Flame Project Report,” Defense Intelligence Agency Directorate for Scientific and Technical Intelligence, October 19, 1983, 3. 「国防省当局者がテロリストに誘拐される」: Author FOIA, CIA: “Task Identification 0049, Report Number 820116,” December 15, 1981, 2.
- p.316 パソフはこの件をすぐに: 命令系統は、パソフ、サルヤー、グラフ、ヴォロナの順だった。覚えていて: フロリダ州でドジャーに取材。この部分の主要情報源はドジャーである。以下も参照。Richard Oliver Collin and Gordon L. Freedman, *Winter of Fire: The Abduction of General Dozier and the Downfall of the Red Brigades*; Star Gate Collection, CIA, Dozier File.
- p.318 ほかの大勢の関係者: デール・グラフに取材。ドジャーの拉致事件はDIAにとって例外的な任務だった。グラフいわく、「DIAはほかの組織が発見したことを監視しようとしていた。直接的なかわりではなく、捜索チームを仕切っていたのは陸軍だった。国防情報局は基本的に分析を担う組織で、通常は現地活動にはかわらなかった。ドジャーのケースは特別だったと言える」アラブ語で: McMoneagle, *The Stargate Chronicles: Memoirs of a Psychic Spy*, 123. (ジョー・マクモニーグル『FBI超能力捜査官ジョー・マクモニーグル』中島理彦訳、ソフトバンクパブリッシング) 曖昧でばらばらな情報: Star Gate Collection, CIA: “Special Content Report, Parapsychologists in Kent Washington,” January 1982.
- p.319 SRIが陸軍のために: Star Gate Collection, CIA: Project Officer, “Coordinate Remote Viewing, Stages I–VI and Beyond,” February 1985, Appendix A, Glossary. AOLは、「シグナルをかき乱す意識または無意識によって生じる情報。ノイズ」と定義される。
- p.322 DIA局長の承認を得て: Star Gate Collection, CIA: Routing and Transmittal Slip, “DIA/Army Grill Flame support to BG Dozier abduction,” December 28, 1981. 「責任者だった」: グラフに取材。SRIで検討したもうひとつの論理的見解は、量子物理学のボームの宇宙生成論だった。この理論では「時空は展開された外在秩序をあたえる」、そして「前空間は内包された内在秩序をあたえる」。“Coordinate Remote Viewing (CRV) 1981–1983,” Briefing (SRI), August 4, 1983, Slide 4, “Is CRV comparable to other known models?”
- p.324 ドジャーの発見と救出: Author FOIA, CIA: “Memorandum for the Secretary of Defense, Subject: Special Intelligence Report Relating to

## 第16章 殺人者と誘拐犯

- p.313 再び暗殺計画が: “Sadat Slaying: Haig Hints Libya Plot,” *New York Daily News*, October 7, 1981. 地对空ミサイル: Jim Schnabel, *Remote Viewers: The Secret History of America’s Psychic Spies*, 283. (ジム・シュナーベル『サイキック・スパイ——米軍遠隔透視部隊極秘計画』高橋則昭訳、扶桑社) デール・グラフは、: グラフに取材。

- the Kidnapping of BG Dozier — Information Memorandum, Jack Vorona,” n.d.
- p.326 ロナルド・レーガン大統領は: Russ Hoyle, “Terrorism: Welcome Home, Soldier,” *Time*, February 15, 1982.
- p.328 ベリーはある覚書で: “Perry Memorandum,” March 5, 1980; Smith, *Reading the Enemy’s Mind: Inside Star Gate — America’s Psychic Espionage Program*, 118, n479.  
「とてつもなく安上がりなレーダーシステム」: William K. Stuckey, “Psi on Capital Hill: Official Circles,” *Omni*, July 1979, 24. 諜報委員会の委員だったローズは、最先端技術を早くから支持していた。タイプライターがまだ使われていた時代に電気自動車で通勤し、議会にコンピュータとファイバー光学を導入した。
- 悪魔の所業: アレグザンダーに取材。
- p.329 「なんらかの超自然的な力」: 以下のターナーのインタビュー。Bill Eagles (director), *The Real X-Files: America’s Psychic Spies*, Independent Channel 4, British Equinox, August 27, 1995, Channel 4 documentary, 1993; Smith, *Reading the Enemy’s Mind*, 117-120, n480.
- p.331 アメリカ陸軍の兵士と民間人職員を六つのステージで訓練する: “Co-ordinate Remote Viewing (CRV) 1981-1983,” Briefing (SRI), August 4, 1983, 9. これらのステージは、SRIを訪れた陸軍INSCOM将校たちにスライド・ショーとして提示された。訓練生が学ぶことは以下の通り。「ステージ1」表意記号とその解釈。表意記号的な反応(ゲシュタルト)を引き起こす/生み出すシグナル。2) 遠く離れた場所から得る知覚。触覚、感覚、寸法の推定、方向感覚などを生み出すシグナル。3) 最初の原始的な解釈となる遠隔地での(限定的な)動きと移動性。ビューアーの感覚的反応、シンプルなスケッチ、「トラッカー」を生み出すシグナル。ステージ4) 遠く離れた場所のさまざまな特性の量的および質的評価。分析的な理解を促す(多種多様な)シグナル。ステージ5) シグナルの詮索方法(まだ研究開発中)。ステージ6) 3次元モデルの作成。遠く離れた場所の特徴となるもののシンプルな複製を作る(統合された)シグナル。最後に、追加予定だが、まだ開発されていないふたつのステージがあった。それは、ステージ7) 音(まだ研究開発中)。口頭的な情報をもたらすシグナル。ステージ8) 人から人への伝達(1984/1985研究開発)。人間の心霊的な共感を暗に伝え、表記文字的な反応(ゲシュタルト)を引き起こす/生み出すシグナル」  
CRVトレーナーにする: マクニアーに取材。コワートは病気になり、プログラムを抜けた。その後二年かけて、スワンはマクニアーにCRVの全6ステージの訓練を施す。  
「敵にわれわれの活動を知られる前に、敵の活動を知る」: ユーチューブ(<https://www.youtube.com/watch?v=PUrF8dQo9uc>)でのインタビュー。スタブルバイン少将(退役)は、現在国連の行動計画アジェンダ21の反対運

動の強力な推進者である(訳注:2017年2月に死去)。彼は、弁護士を通して取材を拒否すると著者に伝えた。

- p.331 ずいぶん前より超常現象に関心を: “An Exclusive Interview with General Albert Stubblebine — “Men Who Stare at Scapegoats,” Podcast #176, September 13, 2013, Gnostic Media, Research and Publishing. [gnosticmedia.com](http://gnosticmedia.com)にて閲覧可能。
- p.332 「先進人間技術室」: Author FOIA, Army INSCOM, “High Performance Task Force, High Performance Programs Information,” 60-304.

## 第17章 意識

- p.333 まだ〈グリル・フレーム計画〉に参加しておらず: ジョン・アレグザンダー大佐(退役)に取材。
- p.334 アンダーソンは、ペンタゴンの将軍たちが: Jack Anderson, “Pentagon Invades Buck Rogers Turf,” *Washington Post*, January 9, 1981.
- p.338 「重要な課題」: Author FOIA, Army INSCOM: “Army Science Board Report of Panel on Emerging Human Technologies,” Office of the Assistant Secretary of the Army, Washington D.C., December 1983, “Abstract,” n.p.  
「人間の能力とパフォーマンスを」: Ibid., i.
- p.341 プレッシュャーは耐えがたいほど: フレッド・アトウォーターに取材。  
「死んでしまったかと思ったよ」: ジョー・マクモニーグルとフレッド・アトウォーターに取材。アトウォーターは、マクモニーグルが回想するほどひどく出血したことは覚えていない。以下も参照。(ジョー・マクモニーグル『FBI超能力捜査官ジョー・マクモニーグル』中島理彦訳、ソフトバンクパブリッシング)
- p.344 マクモニーグルも、トレントを: マクモニーグルに取材。McMoneagle, *The Stargate Chronicles*, 138-139. (ジョー・マクモニーグル『FBI超能力捜査官ジョー・マクモニーグル』中島理彦訳、ソフトバンクパブリッシング)  
疲れを癒す: FOIA, CIA: “Timeline, Secret: Date /Event/Comments,” Sept 77-Jan 31, 1986. アトウォーターに取材。  
体脱体験: Star Gate Collection, CIA: “Information Paper, The Monroe Institute of Applied Sciences,” January 5, 1984.
- p.345 「第二の体」: Robert A. Monroe, *Journeys out of the Body*, 101. (ロバート・モンロー『ロバート・モンロー——「体外への旅」』坂本政道監訳、川上友子訳、ハート出版)
- p.346 「耐えがたいほどのエクスタシー」: Ibid., 197.  
日記のコピーを: Ronald Russell, *The Journey of Robert Monroe: From Out-of-Body Explorer to Consciousness Pioneer*, 41. (ロナルド・ラッセル

- 『ロバート・モンロー伝』杉本広道訳、中央アート出版社)  
 モンローの性的逸脱: プハーリッチは、ロバート・モンローを「ボブ・レーム」という別名で呼んでいた。  
 「意識の拡大という」: Russell, *The Journey of Robert Monroe*, 148. (ロバート・ラッセル『ロバート・モンロー伝』杉本広道訳、中央アート出版社)
- p.347 同研究所が初めて迎える正式なアメリカ陸軍の顧客: Star Gate Collection, CIA: “To Det. G, Director, Individual Training Requirements—Joe, from Command Psychologist, LTC Hartzell,” April 13, 1982.
- p.348 気がついた: Star Gate Collection, CIA: Ibid.  
 共同開発するための: McMoneagle, *The Stargate Chronicles*, 159. (ジョー・マクモニエール『FBI超能力捜査官ジョー・マクモニエール』中島理彦訳、ソフトバンクパブリッシング)  
 「現実の知覚を増幅する」: Ibid., 160–162.  
 この時点で警戒すべきだった: グラフに取材。
- p.349 「人間の能力」: Star Gate Collection, CIA, “Army Science Board Report of Panel on Emerging Human Technologies,” Office of the Assistant Secretary of the Army, Washington D.C., December 1983, E-3, E-5.  
 「電気的効果」: Ibid., E-5.  
 記している: Ibid., B-1.
- p.350 グリーンは報告書に: グリーンとアレグザンダーに取材。Author FOIA, Army INSCOM, “High Performance Task Force, Hemispheric Synchronization,” 294–296.
- p.351 人間利用審査委員会: Author FOIA, CIA: “Contractor Human Use Review Board,” Enclosure 2, undated. ニュルンベルク綱領が制定された理由と過程の詳細は以下を参照。Annie Jacobsen, *Operation Paperclip*. (アニー・ジェイコブセン『ナチ科学者を獲得せよ!—アメリカ極秘諜報計画ペーパークリップ作戦』加藤万里子訳、太田出版)  
 新たに企画する: Star Gate Collection, CIA: “Information Paper, The Monroe Institute of Applied Sciences, Rapid Acquisition Personnel Training (RAPT),” January 5, 1984.
- p.353 ショーがマイクの前に進み出て: *An Honest Liar* starts at minute 53:00.  
 「まれにみる狡猾な科学的策略」: Philip J. Hilts, “Magicians Score a Hit On Scientific Researchers,” *Washington Post*, March 1, 1983.  
 「ランディは、ゲラーが」: *An Honest Liar* starts at minute 59:00.  
 マーティン・ガードナーも声をあげた: Martin Gardner, *The New Age: Notes of a Fringe-Watcher*, 16.  
 事実を「著しく歪曲している」: Author FOIA, CIA: “Defense Intelligence Agency Background paper for Dr. Vorona, Recent Adverse Publici-

- ty on Parapsychology Research,” March 4, 1983, 1.  
 p.354 NSCOMのプログラムが: アレグザンダーに取材。  
 ダグ・ヘニング: アレグザンダーに取材。John Harrison, *Spellbound: The Wonder-Filled Life of Doug Henning*, ii.  
 p.355 「マジックは、不可能に見えることを」: Myrna Oliver, “Magician Doug Henning Dies of Liver Cancer at 52,” *Los Angeles Times*, February 9, 2000.

## 第18章 サイキック・トレーニング

- p.356 おれはいったい何でここにいるんだ?: グラフに取材。  
 p.359 ソ連当局者があやしみはじめたが: Dusko Doder, “Soviet Stop Building U.S. Embassy Over Use of Bugging Detector,” *Washington Post*, May 27, 1983. 記事は、盗聴器発見装置らしきものは、ソ連の作業員が賃金闘争のために仕事を放棄する口実だったと示唆している。  
 グラフと彼のチームが探すべき場所: アトウォーターに取材。  
 諜報委員会は: Elaine Sciolino, “The Bugged Embassy Case: What Went Wrong,” *New York Times*, November 15, 1988.
- p.360 フォート・ミード陸軍基地に赴任したとき: ポール・スミスに取材。  
 p.361 あるアイデアを表すターゲットやシンボル: Author FOIA, CIA: Project Officer, “Coordinate Remote Viewing, Stages I-VI and Beyond,” February 1985, Appendix A. Glossary.  
 感激した: Smith, *Reading the Enemy's Mind*, 142.
- p.363 「センター」: Dames, *Tell Me What You See*, 162–165.  
 臨死体験のようなものだ: Star Gate Collection, CIA: “Advanced Training with MIAS [Monroe Institute of Applied Sciences],” January 5, 1984.
- p.364 訓練を受けた心理学者: セラピストのひとり、ジャン・ノースラップは、スタブルバイン少将の深遠な技術プロジェクトの責任者ジョン・アレグザンダー中将与結婚した。  
 「彼の心のなかには」: ジョン・アレグザンダーに取材。  
 「今後数カ月のうちに」: スミスに取材。Smith, *Reading the Enemy's Mind*, 150–151.
- p.366 左派ゲリラ勢力の活動について: アンジェラ・デラフィオラとスコット・カーマイケルに取材。  
 彼女の双子の姉妹の占星術師: デラフィオラに取材。  
 コーラルという: デラフィオラに取材。以下も参照。Carmichael, *Unconventional Method*, 31–32.
- p.368 ESPの成人教育学級を開催し: “ESP and Parapsychology,” *Indiana Ga-*

- zette*, August 15, 1980.  
「偏見のない心で」: デラフィオラに取材。Author FOIA, Army INSCOM, “High Performance Task Force, High Performance Programs Information, Human Potential,” I-11.
- p.369 尋ね回った: デラフィオラに取材。
- p.370 裁判所の文書には: Smith Papers, “Summarized Record of Trial and accompanying papers of David A. Morehouse, Major, Headquarters and Headquarters Company, 82nd Airborne Division, U.S. Army, Fort Bragg, North Carolina,” Cross-Examination of Colonel Dennis Kowal, MSC, 69-71.アレグザンダーに取材。Smith, *Reading the Enemy’s Mind*, 198.
- 「彼は奇妙なことばかり」: グラフに取材。
- p.371 彼はデラフィオラについて: Smith Papers, “Summarized Record of Trial and accompanying papers of David A. Morehouse, Major,” Cross-Examination of Colonel Dennis Kowal, MSC, 46-51, 73-74.

## 第19章 第三の目を持つ女

- p.373 国家安全保障局(NSA)も同じだった: Star Gate Collection, CIA: Memorandum for Dr. Willis Ware, Chairman and [redacted], Member of Committee, Retired from NSA (former Crypto Manager): “NSA Scientific Advisory Committee, CIA presentation, DIA presentations, SRI presentation,” n.d.  
何度か交渉を重ねたあと: Smith, *Reading the Enemy’s Mind*, 227.
- p.374 「画期的な成果が得られるはずだ」: Star Gate Collection, CIA: Memo from Chief, POG [Redacted] to DT (Dr. Vorona), Subject: Sun Streak, Ops/Tng Objectives,” September 19, 1985; Project Sun Streak: Psychoenergetics, “A Memorandum of Agreement,” September 18, 1984.
- p.375 退役するときは: マクモニーグルに取材。McMoneagle, *The Stargate Chronicles*, 189. (ジョー・マクモニーグル[FBI超能力捜査官ジョー・マクモニーグル]中島理彦訳、ソフトバンクパブリッシング)
- p.376 「疑似科学という非難」: グラフに取材。
- p.377 訓練プロトコル: “Co-ordinate Remote Viewing (CRV) 1981-1983,” Briefing (SRI), August 4, 1983, 3, 9.  
機密解除された文書: Star Gate Collection, CIA: “Coordinate Remote Viewing (Theory and Dynamics),” n.d., handwritten, July 14, 1988, 2.  
スミスは、訓練中の: スミスに取材。
- p.379 国家安全保障会議のブリーフィング: Star Gate Collection, CIA: “Defense

Intelligence Agency, Project Sun Streak, Presentation: DIA’s Motivation for Pursuing this Program,” Slide: Tulum Ruins, Mexico [photograph of physical site], Viewer’s Response(マクニアーが作成した粘土のモデルの写真), ID:13L3162-2. トム・マクニアーに取材(これが彼の作成したモデルだと確認するため)。

「彼は私より才能がある」: Jim Marrs, *PSI Spies: The True Story of America’s Psychic Warfare Program*, 157.

マニュアル本: Star Gate Collection, CIA: “Coordinate Remote Viewing, Stages I-VI and Beyond,” February 1985.

- p.380 上層部は: McMoneagle, *The Stargate Chronicles*, 172-173. (ジョー・マクモニーグル[FBI超能力捜査官ジョー・マクモニーグル]中島理彦訳、ソフトバンクパブリッシング)

「部隊が崩壊することに」: Star Gate Collection, CIA: Comments: Sun Streak Review Status, August 6, 1986 (FOIA, 5 pages); Smith, *Reading the Enemy’s Mind*, 259.

正式に: Star Gate Collection, CIA: “Key Action Status, 1985, Developing Phase, Working Paper, Basic Training, 6 Stages, Drawing/Art Exercises” (undated, 12 pages); Smith, *Reading the Enemy’s Mind*, 245.

- p.381 ほかのメンバーは全員: スミスとアトウォーターに取材。
- p.383 彼女を“魔女”と呼んでいた: スミスに取材。Schnabel, *Remote Viewers: The Secret History of America’s Psychic Spies*, Chapter 21: The Witches. (ジム・シュナーベル『サイキック・スパイ——米軍遠隔透視部隊極秘計画』高橋則昭訳、扶桑社)
- p.386 ギザの大ピラミッド: Star Gate Collection, CIA: Log notes, Remote Viewing Data Session, 05/10/87. Remote Viewer: GP, Interviewer, ED, CRV. Actual Site, Cheops Pyramid.  
マディソン・スクエア・ガーデン: Star Gate Collection, CIA: Log notes, Remote Viewing Data Session, 20/02/87. Remote Viewer: MR, Interviewer, ED, CRV. Actual Site: Madison Square Garden.
- p.389 説明が記されている: Star Gate Collection, CIA: Global Beacon, November 24, 1986, Viewer 079, 12 pages.  
「ソースは」: Ibid.
- p.391 アトウォーターはすっかり感服した: Star Gate Collection, CIA: Global Beacon, December 22, 1986, Viewer 079, 14 pages.
- p.392 デヴィルズ・タワー: Star Gate Collection, CIA: Global Beacon, January 30, 1987, Viewer 079, 11 pages.
- p.394 「ソ連は」: Gates, *From the Shadows*, 265.
- p.395 「不毛地帯の」: Smith, *Reading the Enemy’s Mind*, 295.

- シャリー・シャガン: Star Gate Collection, CIA: “Summary — 1987, Overall Data Evaluation— Operational Projects, 8701-8719,” undated; Sun Streak Annual Report, 1987, undated. スミス、デラフィオラ、グラフにも取材。
- p.396 Smith, *Reading the Enemy’s Mind*, 297.
- p.397 部隊のなかの緊張: スミスに取材。ビューアー同士でも話すようになり、ポール・スミスを含む何人かが、アンジェラがいかにまをしているのではないかと口にした。スミスは「証拠はなかったが、(彼女が)前もって情報を教えてもらっているのではないかと思った」と書いている。つまり、誰かがセッション前に彼女にターゲットの情報をあたえていると疑っていた。
- p.397 「誰でもそうなる恐れがある」: McMoneagle, *The Stargate Chronicles*, 224. (ジョー・マクモニエール『FBI超能力捜査官ジョー・マクモニエール』中島理彦訳、ソフトバンクパブリッシング)
- p.398 変則的なターゲット: アトウォーターとグラフに取材。
- p.398 「極秘調査結果報告書」: Author FOIA, CIA: “Secret Working Papers, Psi Operational Capability,” n.d, six pages. デール・グラフがこの文書に目を通し、作成者がジム・サルヤーだと特定した。サルヤーは、DIAから委託されてSRIでもマネジャーを務めていた。

## 第20章 ひとつの時代の終わり

- p.400 ジャック・ヴァレは: ヴァレに取材。ヴァレのスタートアップの3分の1は株式公開にこぎつけた。そのなかには、カリフォルニアとフランスに拠点を置くバイオ企業サンスタット・メディカル社、ロボット外科手術専門の医療機器企業アキュレイ、電力半導体企業アイシス、インターネット・テレビ会議企業ウビークエ (AOLに買取) などがある。
- p.401 「自殺を考えたこともある」: Deborah Petit, “Mitchell Doubts Fathering Child, Wants Case to End,” *Sun Sentinel*, August 17, 1985; Matt Schudel, “The Dark Side of the Moon: Edgar Mitchell Has Walked on the Moon and Explored Inner Space. It’s Everyday Life That Gives Him Trouble,” *Sun Sentinel*, January 8, 1988.
- p.402 ジェームズ・ランディも苦渋を味わっていた: Adam Higginbotham, “The Disillusionist: The Unbelievable Skepticism of James Randi,” *New York Times Magazine*, November 7, 2014.
- 「ランディは烈火のごとく怒り出し」: Ibid. ヒギンボタムに取材。
- 鉱脈を探り当てて: ゲラーに取材。
- マップ・ダウジング料: Margaret van Hatten, “A Cost-effective Account of the Spoons,” *Financial Times*, January 18, 1986. この記事で、記者のヴァン・ハッテンは、ゲラーの一件100万ポンドという報酬をオーストラリアの鉱物会社ザネックスのピーター・スターリング会長に確認したと書いている。“Uri

- Geller’s Hidden Agenda (Prospecting),” *Virgin West Coast*, April/May 1997. ゲラーに取材。
- p.403 ゲラーとカンペルマンが握手をする: ゲラーの写真、個人所蔵。
- p.404 事実だと確認している: Jonathan Margolis, *The Secret Life of Uri Geller*, 101.
- 「気持ちだけで」: Geller, *Geller Effect*, 157 (ユリ・ゲラー、G・L・ブレイフェア『ユリ・ゲラーの反撃』秋山真人訳、騎虎書房)。ゲラーに取材。
- p.405 スーラ・ベルはのちに: Margolis, *The Secret Life*, 102.
- 声明を発表した: Ronald Reagan, “Statement on Intermediate-Range Nuclear Force Reductions, March 6, 1987,” Public Papers of the Presidents of the United States: Ronald Reagan, 1987.
- 円形の建物の最上階: ゲラーとアレグザンダーに取材。
- p.406 「連邦議会議事堂の屋根裏の」: “Washington Whispers,” *U.S. News & World Report*, May 4, 1987.
- 「将来自分に何が起こるのかをね」: ゲラーに取材。
- アル・ゴアの自宅: ユリ・ゲラーとハンナ・ゲラーに取材。ハンナは、ゴアがアイルランド人歌手のエンヤのCDをふたりにくれたことなど、細かいことをたくさん思い起こした。
- コメントを拒否した: アル・ゴアのオフィスのコミュニケーション・コーディネーター、ロブ・ハミルトンと2016年7月にEメールでやりとり。ジョン・アレグザンダーは、1983年にゴアとほかの議員数人にINSCOMの訓練プログラムの一環として神経言語プログラミング (NLP) スキルを教えたことを認めた。
- おおかえ占星術師の助言をあおいでいた: Donald T. Regan, *For the Record*, 3. (ドナルド・T・リーガン『フォー・ザ・レコード』広瀬準弘訳、扶桑社)
- p.407 「レーガン大統領とナンシー夫人は」: Steven V. Roberts, “White House Confirms Reagans Follow Astrology, Up to a Point,” *New York Times*, May 4, 1988; Joyce Wadler et al., “The President’s Astrologers,” *People*, May 23, 1988.
- 「聖書にも書かれている」: “Reagan Wishes More Dignified Job for Son Ron,” United Press International, June 30, 1986.
- p.408 ベトナム戦争以降最大のアメリカ海軍力: Star Gate Collection, CIA: “Conflict in the Persian Gulf, 1987 Year in Review,” United Press International, 1987.
- 「プロジェクトPへの」: Star Gate Collection, CIA: “Sun Streak Report— Third Quarter CY 87,” to Dr. Vorona, October 15, 1987.
- p.409 宇宙人の「訪問」: Star Gate Collection, CIA: “Remote Viewing Session Data,” Remote Viewer: LB, Interviewer: Ed, Site 0143.
- p.410 「起きたとされるUFOとの遭遇」: Star Gate Collection, CIA: “Remote Viewing Session Data,” Remote Viewer: LB, Interviewer: Ed, Site

0234.

宇宙人最高銀河評議会: Star Gate Collection, CIA: "Description of Personnel Associated 'ET' Bases [sic]," January 28, 1987.

本物ではないターゲット: Smith, *Reading the Enemy's Mind*, 343.

p.411 「遠い未来の住人」: Monroe, *Far Journey*, 226. (ロバート・モンロー『魂の体外旅行——体外離脱の科学』坂場順子訳、笠原敏雄監訳、日本教文社)

p.412 部隊の士気が下がるな: アトウォーター、スミス、デラフィオラ、グラフに取材。エド・デイズは取材を拒否した。

暗号化された座標: Smith, *Reading the Enemy's Mind*, 276.

ヒントをあたえてしまう可能性を排除できる: パソフに取材。

p.414 スミスは怒りだした: スミスに取材。以下も参照。Smith, *Reading the Enemy's Mind*, 353.

p.415 「プロトコルでは」: Ibid., 303.

p.416 「彼は見るからに退屈してた」: Ibid., 304; Star Gate Collection, CIA: "Subject: SUN STREAK— Annual Report, 1987," January 19, 1988.

p.417 「神の恩恵」: "What the Iran-Iraq War can Teach US Officials," *Middle East Forum* 20, no. 2 (Spring, 2013).

p.418 「宗教的問題」: グラフに取材。これは、キット・グリーンへの取材でも確認された。グリーンも同様の抵抗に遭ったという。「宗教的原理主義者たちがいた」とグラフは述べた。

「未来を遠隔視すること」: Star Gate Collection, CIA: "Memo: Sun Streak Report — Third Quarter CY 87," To: DT (Dr. Vorona), Oct 15, 1987.

## 第21章 人質と麻薬

p.420 シーア派のテロ組織「ヒズボラ」: U.S. District Court, District of Columbia, *Robin L. Higgins et al. v. Islamic Republic of Iran et al.*, April 21, 2008, 2-4.

p.421 手続きを話し合った: この組織は国連休戦監視機構(UNTSO)だった。人質として価値が高い: Andrew Rosenthal, "Before His Abduction, Higgins Talked of Risks," *New York Times*, August 1, 1989. DIAC当局者がビューアーに: グラフに取材。

「この作戦は」: ルイス・アンドレに取材。

p.423 自信たっぷり: グラフ、デラフィオラ、スミスに取材。

p.424 「ヒギンズは、実際に水の上でいたんだよ」: グラフとデラフィオラに取材。吊るされる前に死亡していた: カーマイケルに取材。

p.425 こんなときは: グラフに取材。

p.426 報告書は「銀河連合本部」のアンソロジー: Star Gate Collection, CIA: "Site: Galactic Federation HQs, Coords: 1698/1009, Session 13 Jan

88." スケッチには、UFO、建設計画、ローブをまとった者たちも描かれていた。

推薦状も賞状も: Smith, *Reading the Enemy's Mind*, 382; グラフに取材。スミスは、ゲームズの転属先は「(INSCOMにある)さらに秘密主義の部隊だった。彼はそこから1991年10月1日に退役した」と書いている。

ファーン・ガーヴィンは: Smith Papers, "Administrative Data, Performance Evaluation," Morehouse, David A., Cpt." May 24, 1989 and April 30, 1990.

行動がおかしい: Smith, *Reading the Enemy's Mind*, 390. デラフィオラとグラフに取材。

p.427 ジム・サルヤーが作成した: Star Gate Collection, CIA: "Secret Working Papers, Psi Operational Capability," 5, undated (6 pages).

職場での処世術: デラフィオラ、スミス、グラフに取材。スミスの著書には、モアハウスは2年間で「約150日」部隊を欠勤したとオフィスの秘書ジュニー・ベターズが述べた、と書かれている。Smith, *Reading the Enemy's Mind*, 390.

行動規範: Army Regulation 600-50, Standards of Conduct for Department of the Army Personnel, January 28, 1988; USAREC Regulation 600-25, Prohibited and Regulated Activities.

高い称賛を浴び続け: Smith Papers, "Administrative Data, Performance Evaluation," Morehouse, David A., Major." April 12, 1991.

プログラム全体の崩壊: デラフィオラ、スミス、アトウォーター、グラフに取材。Smith, *Reading the Enemy's Mind*, 390. モアハウスは訓練を終え、1989年12月まで14か月間働いた。

p.428 「リモート・マップ・センシング(RMS)」とは: Star Gate Collection, CIA: "Applied Remote Map Sensing Protocol," n.p., n.d.

p.429 「参考書」: Ibid.

わざわざ出向くこともした: Smith, *Reading the Enemy's Mind*, 355.

「私は自分の指で」: デラフィオラに取材。

「大量の」コカイン: Star Gate Collection, CIA: 30 JUL 92 Task/Target Number: 92-77-T, RV 079. コカイン密輸の中心人物、パパロ・エスコバルの居場所の発見も最優先とされた。

スイッチ・プレート: Star Gate Collection, CIA: "Switch Plate Indoctrination, Key Security Principles," n.p., n.d.

p.430 「きわめて慎重に扱うべき」: Star Gate Collection, CIA: "Information about Switch Plate Tasking/Reporting/Evaluation," n.p., 5 of 7.

p.431 DIAは秘密のクライアントに: Ibid., 6.

p.432 あるヒントをあたえた: グラフとデラフィオラに取材。

p.433 「当局者は」: Stephen Engelberg, "U.S. Says Libya Moves Chemicals for Poison Gas Away from Plant," *New York Times*, January 4, 1989. チャールズ・ジョーダン: デール・グラフの文書。グラフとデラフィオラに取材。

- p.434 ビューアー095号: Star Gate Collection, CIA: [redacted] Interim report — 8916, April 26, 1989, Chief Scientists, Defense Intelligence Agency.
- p.435 「あのころは麻薬阻止の」: デラフィオラに取材。
- p.437 九八二回の麻薬対策セッション: Star Gate Collection, CIA: “Statistical Analysis – CY 90,” 2 pages, n.d.  
群を抜いて面白かった: スミスに取材。
- p.439 「人間の意識／潜在意識の相互作用」: Star Gate Collection, CIA: “Star Gate Summary,” Enclosure to S-20, 535/DT-S, May 15, 1991, 4.  
「とりわけソ連と中国のプロジェクト」: Ibid., 2.
- p.440 三人のリモート・ビューアーしか: エドウィン・メイが引き続きプログラムの研究部門を主導し、ケン・ベルとジョー・マクモニーグルがビューアーを務めた。DIAチームの最後のメンバーは、デラフィオラ、ロビン・ダルグレン、リン・ブキャナン、それから1989年11月2日にグレッグ・スワードという民間人が加わった。ブキャナンがコンピュータ技術者とデータベース・マネジャーに移行したため、リモート・ビューイングチームは3人になった。  
毎年恒例のインテリジェンス・エクスチェンジ: グラフに取材。2016年3月4日付のグラフのEメール。
- p.441 プログラムの明るい未来に胸を膨らませていた: グラフ、デラフィオラ、スミスに取材。Smith, *Reading the Enemy's Mind*, 432.

## 第22章 崩壊

- p.442 二三年に及ぶ: 1972年末にSRIではじまったプログラムは、1995年6月31日にCIAによって正式に廃止された。  
AP通信: “U.N. Enlists Psychic Firm to Find Iraqi's Weapon Sites,” November 19, 191.
- p.443 法律関係書類: Dane Spotts, individually and assignee of PSI TECH INTERNATIONAL, INC. a corporation, Plaintiff, vs. EDWARD A. DAMES and JANE DOE DAMES, a marital community; and FRED-ERIC M. BONSALE, a single person, In the Superior Court of the State of Washington and For the County of King, June 15, 2001; Smith, *Reading the Enemy's Mind*, 425.  
「確かに」: スミスに取材。以下も参照。Smith, *Reading the Enemy's Mind*, 424–426.
- p.444 影響は甚大だった: アレグザンダーとグラフに取材。  
ジム・マースというテキサスの元新聞記者と: 1993年にジョー・マクモニーグルは『マインド・トレック——遠隔透視の全貌』(杉本広道訳、中央アート出版社)を出版したが、政府の役割には触れていない。

- 「自分とはまったく縁がないもの」: デラフィオラ、スミス、グラフに取材。モアハウスは取材を拒否した。
- p.445 罪状は重大で: Smith Papers, “Summarized Record of Trial and accompanying papers of David A. Morehouse, Major, Headquarters and Headquarters Company, 82nd Airborne Division, U.S. Army, Fort Bragg, North Carolina by General Court-Martial,” convened by Commanding General, Headquarters, 82nd Airborne Division, tried at Fort Bragg, North Carolina on June 20, 1994 and August 26, 1994 and November 4, 1994.  
「もっとも聡明で」: Smith Papers, “Administrative Data, Performance Evaluation, Service School Academic Evaluation Report,” Morehouse, David A., Major.” June 5, 1992.
- p.446 軍法会議の予審: Ibid.; デラフィオラとグラフに取材。  
「ばかげた状況だったわ」: デラフィオラとグラフに取材。  
一九九四年四月初旬: Smith Papers, “Summarized Record of Trial and accompanying papers of David A. Morehouse,” June 20, 1994. 裁判記録の謄本によれば、モアハウスは「4月2日ごろからウォルター・リード陸軍病院に入院していた」。  
自分は邪悪な悪魔に憑りつかれた: Morehouse, *Psychic Warrior*, 196–197, 199. (デイヴィッド・モアハウス『CIA「超心理」諜報計画 スターゲイト』大森望訳、翔泳社)
- p.447 スミスが思い起こす: スミスに取材。以下も参照。Smith, *Reading the Enemy's Mind*, 439–440.
- p.448 精神科病棟に移された: Morehouse, *Psychic Warrior*, 228. (デイヴィッド・モアハウス『CIA「超心理」諜報計画 スターゲイト』大森望訳、翔泳社)  
責任能力委員会: Smith Papers, “Summarized Record of Trial and accompanying papers of David A. Morehouse,” Appellate Exhibit III, June 8, 1994.  
番組プロデューサー: ハワード・ローゼンバーグのこと。スミスの以下の著書にて引用。Smith, *Reading the Enemy's Mind*, 442.
- p.449 「名誉除隊以外」の除隊: Smith Papers, “Memorandum for Commander, 82nd Airborne Division, Fort Bragg, NC. Subject, Dismissal of Charges – U.S. v. Maj. David A. Morehouse, HHC, 82nd Airborne Division, Fort Bragg, NC.” Department of the Army, January 2, 1995.  
「この現象の源または原因」: Star Gate Collection, CIA: “An Evaluation of the Remote Viewing Program: Research and Operational Applications,” Draft report, prepared by the American Institutes for Research, September 22, 1995, E-4.  
「疑問を感じざるを得ない」: Ibid., E-4, E-5.

- p.450 レイ・ハイマン: ハイマンは取材を断った。  
任意に選び出した三人のリモート・ビューアー: Smith, *Reading the Enemy's Mind*, 449.  
CIA本部に出向き: デラフィオラに取材。
- p.451 「あんなことを研究するなんて」: Gilbert A. Lewthwaite and Tom Bowman, "Pentagon employed psychic spy unit: Fort Meade program sought to 'divine' intelligence data," *Baltimore Sun*, November 30, 1995.
- p.452 汚物と野良猫たちに囲まれて: "Elderly Scientist Ordered Evicted from Reynolds Estate Dies in Fall," *Winston-Salem Journal*, January 4, 1995.

## 第23章 直感、予感、統合テレパシー

- p.457 ヴォルフガング・パバリと精神科医のカール・ユング: C. J. Jung, *Synchronicity*, 19.  
一九七五年、CIAは次のように結論づけた: Author FOIA, CIA: "An Overview of Extrasensory Perception," January 27, 1975.
- p.458 「超常性は推測として拒絶できる」: Star Gate Collection, CIA: John Palmer, "An Evaluative Report on the Current Status of Parapsychology, Army Research Institute for the Behavioral and Social Sciences," May 1986.  
「リモート・ビューイングは曖昧で不確かなテクニックである」: Star Gate Collection, CIA: "An Evaluation of the Remote Viewing Program: Research and Operational Applications: Draft Report, American Institutes for Research, September 22, 1995. Conclusion, E-4.
- p.459 ペンタゴンのためにESP研究をはじめたときは: それ以降、電磁スペクトルにおいて宇宙通信(1960年)、レーザー(1957年)、ファイバー光学(1980年)、コンパクトなテラヘルツ放射装置(2007年)などが発明された。テラヘルツ波は、1896年に発見された。
- p.460 コペルニクスの天動説: NASAによれば、宇宙の太陽中心説を初めて唱えたのは古代ギリシャの天文学者アリストアルコスである。彼は紀元前三世紀に太陽中心説に言及した。  
「スパイディー・センス」: Eric Beidel, "More than a Feeling: ONR Investigates 'Spidey Sense' for Sailors and Marines," Office of Naval Research, Corporate Strategic Communications, March 27, 2014.
- p.461 「狙撃手、IED設置者」: Joseph Channing, "U.S. Navy Program to Study How Troops Use Intuition," *New York Times*, March 27, 2012.  
注記: リッチバーグは、ある男が爆弾を設置して、爆発する前にその場所から逃

げたことを感知した。イラク軍との連絡将校ジョン・スターク少佐いわく、「その爆弾が爆発すれば、確実に死者が出ただろう」。

ESPとPKにまつわる悪評: イギリスのジャーナリスト、ジョン・ロンスンの風刺的な著書『実録・アメリカ超能力部隊』(村上和久訳、文芸春秋、2005年)と、同タイトルの映画(2009年)のせいで、リモート・ビューイングが否定的に見られるようになった。

「センスメーカー」: Office of Naval Research Warfighter Performance Department, Exhibit Fact Sheet: Combat Hunter Computer-Based Trainer; ONR Exhibit Fact Sheet: Virtual Observation Platform: Enhanced Perceptual Training. センスメーカーは、先行思考ともいう。

マクモニーグルのあとに続いた: Kress, "Parapsychology in Intelligence," *Studies in Intelligence* 21 (Winter 1977): 8.

- p.463 パワー・ドリーミング・セッション: パワー・ドリーミング・ツアーは、ユーチューブにて閲覧可能。このソフトウェアはブレマートン海軍病院とICFインターナショナルで共同開発され、バーチャル・リアリティ環境で制御感覚を生み出すことでPTSD患者が感情的なストレス要因に対処できるよう助ける。パワー・ドリーミングは、兵士である訓練生に「戦士の犠牲によって生じる痛みと向き合うことは荣誉である」と思い出させる。
- p.464 自分の意識を修正して: キット・グリーンとのEメールのやりとり。「たとえネットワークに物理的につながっていない細胞組織でも、そこに生じる電気的な周辺の変調は、——「エファプス」の流れ(電流)に影響されている……それらの細胞組織は物質であり……電子さえも物質なのだ」  
気功は「医学として実証されていない」: Roger Jahnke et al., "A Comprehensive Review of Health Benefits of Qigong and Tai Chi," National Center for Biotechnology, National Institutes of Health, July–August, 2010.  
科学的懐疑論者: Peter Huston, "China, Chi, and Chicanery: Examining Traditional Chinese Medicine and Chi Theory," *Skeptical Inquirer* 19, no. 5 (September–October 1995).
- p.465 著者のロバート・トッド・キャロル: Robert T. Carroll, "Transcendental Meditation," *The Skeptic's Dictionary* はオンラインにて入手可能。キャロルが引用する「ある研究」は、以下の通り。Alberto Perez-De-Abeniz and Jeremy Holmes, "Meditation: Concepts, Effects and Uses in Therapy," *International Journal of Psychotherapy* 5, no. 1 (March 2000): 10, 49.
- p.466 「未来の兵士が思考だけで意思疎通をする」: Jacobsen, *The Pentagon's Brain*, 311-312ジェイコブセン『ペンタゴンの頭脳——世界を動かす軍事科学機関DARPA』(加藤万里子訳、太田出版)。「Statement of Dr. Eric Eisenstadt, Defense Sciences Office (DSO), Brain Machine Interface," DARPA Tech '99 Conference.

「テレパシーで自分が望むことを」: Eko Armunanto, "Artificial telepathy to create Pentagon's telepathic soldiers," *Digital Journal*, May 10, 2013.

マイケル・ズムラ部長は説明する: "Scientists to study synthetic telepathy," *Phys.org*, August 13, 2008.

p.467 "brainwave control device": Edmond M. Dewan, "Occipital Alpha Rhythm Eye Position and Lens Accommodation," *Nature* 214, ( June 3, 1967): 975-977.

「人間の脳は“話す”ことができる」: Howard Simons, "Man's Brain Waves Can 'Talk' Overcoming Speech Barriers," *Washington Post*, October 21, 1964.

同じような研究が進行中だ: アンドレア・ストックとの手紙のやりとり. R. Rao, et. al., "A Direct Brain-to-Brain Interface in Humans," *PLUS One*, November 5, 2014.

「進化は膨大な時間をかけて」: Deborah Bach, "UW team links two human brains for question-and-answer experiment," *UW Today*, September 23, 2015.

p.468 「ESPではなくテクノロジーを使っている」: アルヴァロ・パスカル=レオーネ博士に取材。

「ワイヤレスの」: "Direct brain-to-brain communication demonstrated in human subjects," Beth Israel Deaconess Medical Center, Press Release, September 3, 2014.

## 第24章 科学者と懐疑論者

p.470 〈一〇〇年スターシップ〉プロジェクト: ハル・パンフ、エリック・デイヴィスに取材。Sharon Weinberger, "100 Year Starship: An interstellar leap for mankind?," *BBC Future* (BBC.com), March 22, 2012.

p.471 非正統派呼ばわりする懐疑論者と: 天体物理学者のローレンス・クラウスに取材。彼はパンフを「周縁科学者」と呼んだ。

p.472 有効活用できるか: この部分は、パンフへの取材と彼の以下の小論に基づく。"Physics and Metaphysics as Co-emergent Phenomena". この小論は、以下の本の一章として発表された。S. Savva, ed., *Life and Mind*, Trafford Publishing, Victoria, BC, Canada, 2006.

エネルギー研究の“至高の目標”: H. E. Puthoff, "SETI, the velocity-of-light limitation, and the Alcubierre warp drive: An integrating overview," *Physics Essays* 9 (1996): 156; H. E. Puthoff, "Space propulsion: Can empty space itself provide a solution?" *Ad Astra* 9 (1997): 42; H. E. Puthoff, "Can the vacuum be engineered for space-

flight applications? Overview of theory and experiments," *Journal of Scientific Exploration* 12 (1998): 295; H. E. Puthoff, "Engineering the zero-point field and polarizable vacuum for interstellar flight," *Journal of the British Interplanetary Society* 55 (2002): 137.

地球から火星まで有人宇宙飛行をする: William B. Scott, "To the Stars: Zero-point energy emerges from realm of science fiction, may be key to deep-space travel," *Aviation Week & Space Technology*, March 1, 2004.

NASAが現在: "Mars Program Planning Group Frequently Asked Questions," *nasa.gov*.

クラウスはパンフを“変わり者”と呼び、ローレンス・クラウスに取材。クラウス自身にも批判者が大勢いることは注目に値する。2015年11月20日のサイエンティフィック・アメリカン誌の記事「ローレンス・クラウスは物理学者なのか、ろくでもない・哲学者なのか?」で、ジョン・ホーガンが物理学者のジョージ・エリス(スティーヴン・ホーキングの最高傑作 "The Large Scale Structure of Space-Time" の共著者)にクラウスの研究について取材した。「彼が提示しているのは実験により正しいと証明された科学ではない」とエリスは言った。「哲学的な推測であり、どうやらそれがきわめて強力なため、真実だと裏づけられる証拠など必要ないと信じているらしい」

p.473 「宇宙エネルギーという未科学的なコンセプト」: H. E. Puthoff, "Physics and Metaphysics as Co-emergent Phenomena," in Savva, *Life and Mind*; H. E. Puthoff, "Source of vacuum electromagnetic zero-point energy," *Physical Review A*, Vol. 40 (1989): 4857.

自分のチームとともに: パンフとデイヴィスに取材。デイヴィスは、国防総省のためのテレポーターション研究を終えて以降、この研究所に在籍している。以下は彼による自分の研究の説明である。「2004年末からハルのためにしているのは、アインシュタインの一般相対性理論と場の量子論を(量子真空物理学を通じて)、ワープドライブと横断可能なワームホールを経由する光速以上の宇宙推進力のためにさらに発展させることだ。この研究には、タイムマシン、ブラックホールに代わるもの、量子真空ゼロ点エネルギーとそれらの表れと宇宙への影響、量子もつれとテレポーターションの時空構造への影響(最終的には、意識へのその役割)を探求することも含まれている。だから、意識の物理学と心霊現象には非常に興味がある。今のところ、協力関係にあるNASAと国防総省のために超光速星間飛行研究を最優先しなくてはならないので、これらの研究の優先順位は低いのだが」

p.474 チェンが中心的な役割を果たした: "Tsien Hsue-shen, 2007 Person of the Year," *Aviation Week & Space Technology*, January 7, 2008.

ニュー・サイエンティストも: Top Ten Influential Space Thinkers, *New Scientist*, September 5, 2007.

- p.475 ミチオ・カクが以下のように: Brent Baughman, "Scientists Take Quantum Steps Toward Teleportation," NPR, *All Things Considered*, August 1, 2010.
- p.476 「この深遠な現象の本質を」: "The Experiment That Will Allow Humans to 'See' Quantum Entanglement," *MIT Technology Review*, February 17, 2016.
- p.477 データを取り上げた: Graff, remarks at the Quantum Retrocausation III symposium at the University of California, San Diego, June 15-16, 2016. 2016年6月15日から16日にカリフォルニア大学サンディエゴ校でおこなわれた量子逆因果性Ⅲシンポジウムでのグラフの発言。グラフに取材。グラフの地元紙リーディング・イーグルに毎日AP通信の写真が一枚掲載される。紙面は上半分が「全国のニュース」、下半分が「世界のニュース」、右下の隅が写真という構成だ。グラフは、写真が地元のニュースとも世界のニュースとも関係がなく、AP通信にある写真から任意に選ばれることを編集長に確認した。
- p.478 「まだ見えない現実が潜在してるんだ」: グラフに取材。
- p.479 ベンタゴンの軍事および情報科学顧問: グリーンに取材。Biographical Sketch of Committee Members, National Academies Press.  
軍事情報科学および脳研究の未来の考察: Green et al., "Emerging Cognitive Neuroscience and Related Technologies of the Committee on Military and Intelligence Methodology for Emergent Neurophysiological and Cognitive/Neural Research in the Next Two Decades," (2008) 15-51.
- p.480 極秘の科学諮問委員会にも参加を求められた: グリーンに取材。退役中將のクラッパは、リモート・ビューイング・プログラムの最後の4年間、国防情報局の局長だった。  
ヒラリー・クリントンも: Al Vicens, "Hillary Clinton Is Serious About UFOs," *Mother Jones*, March 25, 2016. クリントンはテレビ番組のホスト、ジム・キンメルに「新しい名称があるの。『未確認空中現象』よ。UAP、それが最新の呼び方なの」と語った。  
ユリ・ゲラーと: グリーンとヴァレに取材。この出来事が起きた時期については、意見が分かれる。ローレンス・リヴァモア国立研究所の物理学者ロン・ホークは1974年末だったと述べ、ヴァレ(その場に居合わせなかったが、内情に通じている)の日記では1975年3月に記されている。
- p.482 「よくある負傷は」: グリーンが無料奉仕の仕事に公に言及したのはたった一カ所、国際リモート・ビューイング協会(IRVA)ウェブサイトの経歴のなかの一行のみである。
- p.483 ギャリー・ノーランが運営する: ノーラン・ラボとギャリー・ノーランの情報は、スタンフォード大学のウェブサイトにて閲覧可能。ノーランは現在、スタンフォード大学メディカル・スクール微生物学・免疫学科のラシュフォード・アンド・カーロタ・A・ハ

リス・プロフェッサーである。

- p.486 「私は私だけの神を信じている」: Alexander Carpenter, "Martin Gardner on Philosophical Theism, Adventists and Price," *Spectrum*, October 17, 2008. ガードナーのインタビューは、ケンブリッジ・ユニバーシティ・プレスの提供により、オンラインで閲覧可能(spectrummagazine.org)。  
「神は偉大なマジシャンだ」: Martin Gardner, *The Whys of a Philosophical Scrivener*, 184.
- p.487 「チャネラー・カルロスでつち上げ事件」に連邦犯罪が絡んでいた: アダム・ヒギンボタムに取材。Higginbotham, "The Disillusionist: The Unbelievable Skepticism of James Randi," *New York Times Magazine*, November 7, 2014.
- p.488 「ペテン師になった気分だった」: Justin Weinstein and Tyler Measom, *An Honest Liar* documentary.  
「冗談じゃない!」: ジェームズ・ランディに取材。Geller's ashes: Michael J. Mooney, "The God of Skeptics," *Miami New Times*, August 27, 2009.

## 第25章 サイキックと宇宙飛行士

- p.490 「彼には特別な力があると思う」: ネタニヤフ首相のウクライナ・テレビのインタビュー(ゲラー所蔵の映像)。
- p.493 示唆していた: Vikram Jayanti, *The Secret Life of Uri Geller —Psychic Spy?* BBC Two documentary.
- p.494 インタビューを録音し: ユリ・ゲラー、ハンナ・ゲラー、シビ・シュトラングに取材。
- p.499 ゲラーのESPとPK能力: アムノン・ルービンシュタインにテルアビブで取材。ルービンシュタインは1977年から2002年にイスラエル政府の立法府クネセト(国会)の議員だった。  
個人の対イスラエル抵抗運動が多発していた: Daa Hadid, "American Graduate Student Killed in Stabbing Rampage Near Tel Aviv," *New York Times*, March 8, 2016; Oren Liebermann, "American fatally stabbed in Israel terror attack that wounds ten others," CNN, March 9, 2016.
- p.504 ネタニヤフか: Isabel Kershner, "Israelis Find New Tunnel from Gaza into Israel," *New York Times*, April 18, 2016.
- p.505 「私の勤では」: ダン・ウィリアムズに取材。2016年に著者がマップ・ダウザーのルイ・マタンア——ベトナム戦争で海兵隊員にベトコンのトンネルを発見するダウジング・テクニックを教えた元陸軍測量技師——を取材したとき、彼は2005年にイスラエルを訪れて、治安部隊にガザとの南側の境界に沿ってトンネルをダウジングする手伝いをしたと述べた。著者はこの話を、やはりこの任務に携わったロン・ブラックバーンという元空軍大佐にも確認した。ハマスなどのテロ組織はガザ地

区からイスラエル領域まで頻繁にトンネルを掘っており、伝えられるところでは、現在はイスラム国もシリアで同じことをしているという。

p.507 「これは宇宙旅行中につけた」: ミッチェルに取材。

p.511 この地図を手に月面に立つ: United States Geological Survey map, 2-LS-1/EVA-2, Apollo 14 Image Library, Landing Site Maps (hq.nasa.gov). ミッチェルは月面で地図を見ながら、次のように言っている。「いや、おれたちはあのくぼ地、あの谷から出てきたんだと思う。この地図にのっているよ。ここ(USGS地図の“720”と表示されているクレーターの東)にある暗い部分が、おれたちがあの谷(の東壁)と呼んでいたところだ。あれはとてもいいくぼみだった。そして、アルが丘の上と言っているのがそれだ。ほら、ここにもうひとつ丘があって、そのあとわたしたちは実際にコーン・クレーターの側面を上りはじめたんだ」。出典は、“Climbing Cone Ridge – Where Are We?”, Corrected Transcript and Commentary, by Eric M. Jones, NASA, 1995。

p.512 「もう人生も終わりに近い」: ミッチェルに取材。